

九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

中村哲著述アーカイブ
Nakamura Tetsu Digital Archive

空爆と「復興」：アフガン最前線報告

中村, 哲、ペシャワール会 編著

アフガン最前線報告 (2001. 9. 11～2003. 12. 31)
(2/3、2002年)

<http://hdl.handle.net/2324/4772331>

出版情報：空爆と「復興」：アフガン最前線報告, pp. 329-409, 2004-05. 石風社
バージョン：初版 2004-05-31

権利関係：©Tetsu Nakamura & Peshawar-kai Printed in Japan 2004

石風社より許諾を得て本文を公開しています。

公開しているPDFの印刷、複製および許可のない二次利用はおやめください。



KYUSHU UNIVERSITY

2002年

暫定政権の樹立と米軍の進駐によって軍閥が復活。全土で治安が悪化する中、中村医師はアフガン農村の長期的復興をめざす「緑の大地計画」を発表。医療事業と水源確保事業、残余食糧の配給に加え、農業支援、そして全長一四キロに及ぶ用水路建設計画を柱とした、ベシヤワール会過去最大の挑戦が始まった。

一月二日（水）

新年おめでとうございます。今年もよろしくお
願い致します。

カーブルとジャララバードでPMSの活動許可
を取り、食糧配給計画に参加するスタッフを送る
ようにとの連絡が、一二月三一日にシア副院長か
ら来ました。一日に医療スタッフから二名、事務
から一名と料理人一名がジャララバードへ行きま

した。まず、アチン郡から家族調査を開始します。
現地で採用された一四名とベシヤワールから赴任
したスタッフで準備に取り掛かり、明日はアチン
へ出向きます。

ジャララバードからアチンまでは車で二時間は
掛かる距離で、スタッフ達はアチンに滞在するこ
とになりました。

断食前に食糧配給作業を一時中断してから、ベ
シヤワール側ではイクラムラ事務長や日本人ス
タッフによって、製粉・製油工場との接触を続け

ていましたので、いつでも輸送は可能な状態になっていきます。ただ、アフガニスタンの暫定政権樹立後、パキスタンの内務省はパキスタン側からアフガニスタンへの食糧の輸送を国連機関のみに許可しており、NGOには何処にも許可を出さないのだそうです。ただし、食糧以外の援助物資は可能です。明日はそこら辺のことをもっと調べることになっています。

カブルの事務所は家も決まり移転を進めています。ジア副院長はジャラバードの「プランニング・ミニストリー」からアフガニスタン出国の許可を貰い、トルハムから正式にパキスタンへ入国しようと試みましたが、国境は大変厳しくガードされ、入国できませんでした。

(藤田)

一月七日(月)

現在の進行状況をお知らせします。

(1) 一月八日、井戸掘りグループ(連岡ら日本人)はジャラバードに復帰予定。組織の

立て直し後、さらに拡大し、予定通り今後三年間で二〇〇二ヶ所の飲料水確保(井戸)を目指す。三月まで現在の態勢を続行。

(2) 食糧配給部はジア医師、シヤラフ医師の指揮下に周到な調査と準備の後、食糧配給をすでに開始。一月八日、二八〇トン(コンボイで一〇台分)がトルハムを通過、ニングラハル州から東部に逃れてきた国内避難民、早^{ばう}魘で飢餓状態に瀕する家族に配給される。これは、今年の初荷となる。二月末までに小麦粉約三千トン、食用油一五万リットルが予定されている。これを以て、緊急食糧配給計画はいったん終了、第二期計画に切り替える。

(3) 「PMSジャラバード統合事務所」は一月八日から準備を開始、約一、二ヶ月をかける農村復興計画の調査と平行して整備される見通し。藤井氏が第二期「緑の大地計画」の会計担当で現地入りする。今後、統合事務所を通して水源確保計画(井戸)、農業計画、灌漑計画などの進行が報告される。ジア副院

長をリーダーとして目黒らもこの事務所準備に関わる。

(4) 医療計画は、中村のジャララバード滞在中に、活動地を選定、カーブルの現五ヶ所の診療所を東部に移転(四月)、既存のPMS診療所と共にフィールドワークの基地として機能、かなり広い範囲をカバーする。

(5) 農業指導グループ(日本から)の到着を待って、農村の復興(農業研究・教育、灌漑設備工事による増産、自給自足態勢確立)を具体化する。「緑の大地計画」でこれが最大規模のものとなるが、急がない。四月から本格化させる予定。それまでに統合事務所が下準備をしておく。

(6) ペシャワールのPMS病院の機能強化なしに以上は進まないで、同時平行で進める。以上、メディアでは政治権力の動向が話題になりやすいが、農村社会の基礎構造はほとんど変化がないので、計画に大きな変更はありません。但し、カーブル市内については政府や国連レベルで

援助ラッシュが始まったので、私たちの出番は去ったと判断しています。なお、ジャララバード初め地方都市は百鬼夜行。無秩序がアフガニスタン全土を覆っている。NBC、CNNニュースら西側の主要メディアさえも呆れて退散、正直に旧タリバン政権の秩序を賞賛する状態。しかし、安定に向けて水面下で、地元民自らの手で確実に何かが進行中。PMSもこの「何か」に沿って協力、平和な農村生活の奪回を目指します。詳細はまた、東部の調査を済ませて、ジャララバードから帰った後報告いたします。

(中村)

一月二三日(日)

昨日(一二日)ジャララバードから戻りました。町は現在平靜ですが、バザールはまだ半分ほどは閉じられていました。外国人はほとんど見かけませんでしたが「国境なき医師団」のオランダ人一名、カナダ人一名が一時滞在して会いに来ただけでした。新しい州知事、ハジ・カディール氏の

所に一応挨拶に行き、協力を取り付けておきました。権力の動向はまだ流動的らしく、重要ポストは次々と変化しています。全体として、パシエトウン民族系の復権が進んでいるように思われました。

しかし、武装権力はグラエヌール出身のパシエー部族の手にあるため、今ひとつ安定を欠いているようです。幸か不幸か、PMSの最も充実した協力がグラエヌール渓谷で行われてきたため、私たちについてだけは、例外的に便宜を図ってくださっているようです。

現在、蓮岡、目黒、藤井の日本人スタッフが滞在、シア院長補佐の指揮下で「緑の大地計画」の統合事務所設立を始めました。食糧配給は、PMS病院から派遣されたシャーフ医師以下十数名が、現在アチン郡の飢餓地帯を綿密に調査し、一〇日に大規模な配給が始まりました。私も現場を見ましたが、思ったより整然と配給が行われ、北部同盟兵士も非常に協力的でした。これは二月末までにニングラハル州全域で完了いたします。

水源確保事業の方は、ジャラバード統合事務所ができるまで現在の態勢を維持し、管理体制が確立した後、更に拡大発展を予定しています。農業計画も同様に、作業地を選定した後に行われます。

よい知らせは、間もなくアフガン新政権とパキスタン政府との外交関係が今週中に正式に発足、ジャラバード、ペシヤワール双方に領事館が置かれます。現在、流動的な権力を、私たちも含めて一般住民は、様子を見ている状態ですが、基本的な生活は殆ど変わっていません。旧タリバンのメンバーも何事もなかったように住民の間に溶け込んでいます。

米兵がチャプラハル郡で狙撃され、一名が死亡、一名が負傷しました。誰が狙撃したか分からないそうです。おそらく、欧米人はまともに町を歩ける状態ではないようです。

グラエヌール渓谷では感激しました。ほとんど無傷のまま、診療も、水計画も、灌漑計画も、進行中です。目黒君が長く滞在していたので、まる

で谷中の人が再会を喜んでいるようでした。ローガル州は現在三重権力、しばらく時間がかかりますが、誰も入りながらぬ所なので、カーブル診療所を閉鎖した後、その分だけこちらに医療活動を移す計画でおります。

みんな元気です。山崎さんも縁の下の力持ちでたくましくやっています。藤田看護部長の役割も今後ますます重みを増してきます。中山さんはペシャワールのPMS病院で会計担当として、活躍が期待されます。また連絡しますが、とりあえず。

(中村)

一月一六日(水)

お元気ですか。

一月八日に日本人スタッフがジャララバードへ復帰しましたので、病院もスタッフハウスも大変寂しくなりました。井戸掘り作業をしていた蓮岡さん達は九月にジャララバードを引き上げて以来、ずいぶん長い間再入国を待ちましたので、皆大変

喜んでアフガニスタン入りをしました。

また、同日にペシャワールから今年初的小麦粉発送をしました。既にアチン郡で家族調査を開始していましたのでそこの配給です。報告では、特に騒動も起こらず作業はスムーズに行われました。

ただ、いくつかの小麦粉が変質していたり、質の悪い粉が詰められているのが判明しました。

昨年、北部同盟がカーブルを制圧した日からペシャワールからの食糧発送ができなくなり、当日既に国境のトルハムへ向かっていったトラックも引き戻し、また翌日発送予定だった食糧をそれぞれの製粉・製油所で保管してもらっていました。

時々製粉所から、早く使用しないと粉がだめになるという連絡は受けていましたので、保存期間による被害はこちらの責任ですが、質の悪い粉についてはイクラムラ事務長が憤慨して製粉所側へ苦情を訴えました。結果、製粉所が職員の管理ミスを確認しました。大きな製粉所では小麦を製粉する過程で粉になる良い部分を盗む職員達(団体で行

動する）がいるのだそうです。

ということ、製粉所がジャラバードへ職員を送り、配給できなかった悪い小麦粉と量を確認した後、一番高価な小麦粉をそれに混ぜ配給できる状態にすることを約束し、昨日製粉所の職員二人がジャラバードへ向かいました。アチン郡ではPMSが食糧配給を始める前に、援助活動を名乗る団体が配給カードを一枚三〇〇ルピーで合計四千枚販売した後、何の配給もされなかったことがありましたので、今回PMSが質の悪いものを配給していたら住民の信頼はますます難しくなっていたでしょう。

アチン郡での配給を終えたスタッフ達は、今チャプラハール地区で家族調査を始めています。ペシヤワールからの次回の発送は一九日か二〇日の予定です。今回はゆっくりとしたペースです。でたいへん楽です。井戸掘り部隊がいなくなり、ペシヤワールで彼等がしていた仕事の引継ぎや来客の応対で大変忙しくしていましたので連絡が遅くなりました。

（藤田）

一月一七日（木）

グラエヌールのクリニックに数日間滞在しましたので、それを中心にアフガニスタンの近況を報告します。

中村医師と共に訪問した一月九日には、グラエヌール渓谷上流のヒンドウクッシュ山脈には雪は全くと言って良いほど見えませんでした。一月一三日にはジャラバードに雨が降り（数ヶ月ぶり）、渓谷上流部には雪が降っていました。一月一五日に私がグラエヌールを訪れた時も、山脈には雲がかかり降雪が見えました。ただ、積もっている雪の量は例年の夏の残雪程度しかないとのこと。

タリバン撤退時について聞き込んでみましたが、戦闘や混乱等はなく、撤退が完了してから北部同盟側の兵士が来たそうです。空爆を避けるために、多くの人々がグラエヌールに来ており、徐々に都市部へ帰還していますが、パキスタン側から戻っ



グラエヌールの街道を往く家畜たち

てきた人も多く、人口はだいぶ増えています。

カレーズ（伝統的地下水路）も涸れ始めており、昨年八月の調査で一〇〇本程の井戸（合計）が必要と計算していましたが、このままだと足りなくなると思われます。村人の生活は以前と殆ど変わらず落ち着いていました。女兒向けの学校も開かれたそうです。

四ヶ月近くも留守にしていたので、殆どの人からお茶や食事に誘われますが、忙しいと断つても真剣に「久し振りなんだから少しぐらい……」と怒られてしまいます。殆どの村人が無事だったのは何よりの報告です。戦死していたのは一人だけでした。彼は体も大きく働き者だったので、幾つかの場所ですべて特別に依頼して派遣していた者でした。北部同盟の徴募に応じて志願し、トラボラで戦死したそうです。以前に「タリバンは好きだがアラブ人は良くない」と言っていたのを思い出します。

一月一五日に彼の家を弔問しました。家族は志願に反対していたそうですが、生活費のためと

言って出て行ったそうです。

渓谷の雰囲気も少し変わりました。以前、ガラエヌールで銃を持っているのはタリバンか協力している村人だけだったので、治安も良く何も心配なかったのですが、今は多くの若者が肩に銃を掛けており威圧感を感じます。髪の毛の長い者が多く（タリバン支配下では宗教上の地位のある者以外は長髪は認められていなかった）、恐らく北部同盟側の兵士として戦っていた者が帰還したのでしよう。農作業を手伝うでもなく、手持ち無沙汰でたむろしている姿は異様です。

ガラエヌールで銃を持っているのは全てハザラット・アリの配下の兵士と言いますが、味方の司令官同士があまり仲が良くないそうなので村人も恐れています。私自身も銃声に慣れており、以前なら銃声を聞いても「ああ、タリバンの演習か……」で済んでいたのですが、今は「誰が何のために撃ったのだろ……」と不安になります。

それでも子供達は変わりませんでした。私を覚えていた子供も多く、「ジャパニー、パカエラア

リー!!（日本人、ようこそ）」と握手を求めています。テロ事件以前から何も変わらない人たちが我々の作業の対象であり、我々の仲間です。彼らは何も変わらず一生懸命生活しているのですから、我々の活動も変わりません。今まで通り彼らと一緒に生きていきましょう。

（目黒）

一月二一日（月）

今年初めての食糧を、一月八日ベシャワールからジャララバードへ発送しましたが、無事に配給先アチン郡に着き、二日間に渡って配給作業が行われました。

アチン郡での配給後チャブラハール地区での家族調査を終える直前に発送の依頼を受け、一月一九日と二〇日にトラック計七台分の小麦粉一九六トンと、トラック一台分の食用油二〇トンをベシャワールから送りました。どのトラックも無事に国境トルハムを越え、PMSの職員がジャララバード事務所からトルハムまで迎えに来て配給先

へ誘導しています。

一九日は藤井さんと大月さんがトルハムまでトラックの誘導にきました。食糧配給チームは、昨日（二〇日）と今日、チャプラハールでの配給作業をしました。以下、ジャララバード事務所からシャラフ医師、ジア副院長、藤井さんの報告です。

——アチン、チャプラハールでは予定どおりに一族につき小麦粉五〇キロ、食用油五キロを配給した。どちらの配給先でもその地区の長老やニングラハル州の治安局に活動の内容を説明し地区内での活動許可を得た。治安局から派遣された職員が安全と秩序を守ってくれたので、今のところきちんと配給作業がなされている。二〇日と二一日にチャプラハールで予定していた三五二〇家族への配給を終えた。チャプラハールは早魃^{かんぢ}も酷い^{ひど}状態である。この地区に二本の井戸があり井戸の持ち主は金持ちだが、水供給料金として一時間あたり二五〇ルピー徴収していた。今ではその二本の井戸も涸れてしまっている。今回PMSの食糧配給チームは、この地区での家族調査で三五〇〇

家族を配給の対象にしたが、カーブルの配給時と同じ状況で殆どの家族が食糧を必要としている。アチンも同じような状況だったので、次の配給予定地ラグマン州での作業を始める前に、この二地区の配給をもうしばらく行なった方が良い気がする。

シャラフ医師は、二〇日から二日続けての配給作業で二〇人のスタッフがぐたくたに疲れているので、明日は少し休憩を取りたいと言っていました。明日は少し休憩を取りたいと言っていました。アチンもチャプラハールも早く配給した方が良く、せかしているようです。ペシャワール側は彼等からの家族調査終了の連絡を受けてから発送するので、割とゆっくりしていますが、ジャララバードでは家族調査後すぐに配給作業が始まるのでたいへんな労働になっているのではないかと思います。

今日は、グラエヌール、グラエピーチ、ワマの各クリニクの交代要員の出発日でした。カーブルにパキスタン大使館が開館したものの、アフガン人はまだ正式にトルハム国境からパキスタンへ

の入国許可が取れません。今回は藤井さんと大月さんがジャラバードで医療チームと合流してワマ・クリニックまで行く予定にしています。ワマ・クリニックにはこれまで日本人では中村先生と事務局の福元さんが行かれただけなので、クリニックや村の人達の励みにもなれば良いと思います。

(藤田)

一月二四日(木)

「井戸についての報告は次回に致します。現在手がけた井戸総数は六六〇、作業進行中一一〇ヶ所、水ポンプを二台追加予定(現在一二台)。ロダットの一部地域では一日五センチずつ水位が下がっている。その他の地域も減少が早く使用不能になる井戸が続出したため、報告は集計後に行います」を前置きに以下の報告が寄せられた。MSF(国境なき医師団)のワーカーがPMSのジャラバード・オフィスを訪れ、井戸に関する依頼をしている。MSF自身は具体的な活動は行っ

ない。

(ペシャワール会事務局)

*

*

*

少し前に指示のあったサルシャヒー難民キャンプの給水施設修理の件の報告。

一四日にハイルツラーと連岡で調査に行ったところ、既にサウジアラビアのNGOのARABが作業を開始していた。修理箇所はMSFの報告にあった通り、技術的な簡単な作業で修繕できるもので、部品も保管有り。二日で修理完了予定。

MSFから要請があった箇所は以上の通りですが、サルシャヒー難民キャンプの生活環境はとも普通の状況ではなく、色々な支援が必要に思われました。状況はおおよそ次の通り。医療面では現在四つの診療所が開院、住民の数は大体三六〇〇人前後(各施設によって報告は大きく違う)、テントはIIRRO(サウジ系NGO)からの提供のものが数十、国連支給二〇〇、その他はありあわせの継ぎはぎで作られている。

給水施設のボーリング井戸はサルシャヒー一帯

(現在のキャンプ地は全体の一割ほど)で六つ。

キャンプ地に近い一つが使えて、その他五つは機械の故障が主な原因で使用不能。今回要請のあったのはキャンプ地へ繋ぐための水タンクの補修で、今まではキャンプ地からボーリング井戸のある場所まで水を汲みに行かなければいけなかったが、この作業によりキャンプ地に直接水が配給できるようになる。ただ、現在ボーリング井戸ポンプの稼働はSCAの援助により一日三時間分の燃料が補給されているだけで、朝八時から一時までしか水は供給されない。多くの住民はキャンプから歩いて三〇分ぐらいのところにある川から水を汲んできている。

現地を管理している責任者から幾つかの要請を新たに受け取ったが、我々の活動範囲でできると思われるものに次の三つがあった。

(1) 現在使用中のボーリング井戸用のポンプ発電機の子備機械の修理。

(2) 現在故障中のボーリング井戸用ポンプ(五つの内の一つ)を修理して現在使用中の

物と併用して使えるようにする。

(3) 現在SCAの援助で一日三時間の燃料が供給されているが、これを時間を変えて更に三時間分燃料を援助する。

機械の修理の正確な見積はまだ出ていないが、メカニックの話によれば二万ルーピーぐらいではないかとのこと。機械自体が大きく運搬も費用がかかる。

最近のNGOの作業は突然行われるため、これらについても再調査が必要になると思われます。具体的な指示をいただければ、必要なときにすぐに現地での入念な調査の上で作業開始が可能だと思われます。
(蓮岡)

一月二六日(土)

現地の水位はどこも下がり続け、数ヶ月前に比べても平均で三〇センチ下降している。特にロダット郡のバンダ村一帯では日に五センチずつ水位の下降が見られた。現在、ソルフロッド郡で一



タリバン崩壊後、ケシ栽培が復活した

月後半から涸れてしまった一二〇ヶ所の完了井戸に対する再生作業を始める一方、ログット郡、アチン郡の既に手を加えた井戸への作業を行っている。地層によって水位の下降が違いため、地域によって今後の水位の大幅下降がないと推測される所を優先的にウォーターポンプ作業を開始し、完成を目指し、その他の、いつまで水位が下降するのか予想が立てられない場所に関しては、住民達による「涸れたら掘る」作業を繰り返していく方針で、夏季への準備を進めている。現在作業進行井戸は一二一本。これは以前作業地の拡大期に試した、組織的にコントロールできる最大限度数を上回っている。しかし殆どが再生作業なので現在までの作業井戸数にあまり変化はない（一月二五日現在六六〇ヶ所）。

タリバン政権が崩壊し、地方の政治グループが独自に自治を確立している状況で、犯罪の取り締まりも緩くなっている。地方の村々での夜中の治安は極度に悪化している。最近も地方に事務所を持つNGOの事務所が襲われ門番が射殺され、

一般の民家でも盗賊の襲撃が頻繁に起こっている。我々の一二班あるウォーターポンプ隊も、地方で作業する場合は、メカニックが機械と一緒に泊り込んで作業をすることになっているが、最近地方での略奪騒ぎが酷くなってきた為、地方政府に連絡し、各作業村から一名警備を取り決めて出させるように長老会議に要請してもらい、この案は村ごとに受け入れられることになった。

現在でも井戸に関する陳情は色々な郡から届けられ、早魃の影響が深刻なものになりつつあることが窺われる。最近では、わずかに水が流れる場所で現金収入が望めるケシなどの栽培が目立つ。タリバン政権が崩壊した後、これから新政権の秩序回復が実行されるまで、このような治安の悪化の継続は予想される。

道具の中で、ロープ、ヘルメット等の輸入品が入手しにくくなっており、代用品の考案を緊急に迫られている。物の値段に関しては通貨アフガニの高騰で以前からアフガニで取引されていた野菜や果物などは二倍から三倍に値段が上がっている

が、パキスタン・ルビーで取引されていた家庭雑貨、電気製品、道具類に関してはあまり値段が上がっていない。ただ、市内の家賃が高騰しており、二倍以上になっているところもある。これはアフガン再建に伴い難民が帰還するのを予想してのこと。

(連岡)

一月一八日よりビザ取得のためにカーブルへ行ってきました。半年振りのカーブルでしたが、やはり以前とは色々な面で変化がありました。一番目に付いたのは軍服姿の北部同盟兵士がかなり多く見られたことですが、以前のタリバンに取って代わっただけではなく、軍服自体が流行になっているようにも見えました。しかし新しい制服の兵士に混じって、かなり多くの少年兵が見られました。どう見ても一〇代の少年が軍服を着ているのは気分の良いものではありません。

街は落ち着いており、バザールを歩くのも可能でした。政府の施設以外には銃を持った兵士はい

ませんでした。が、国連の治安維持軍の車が走り回っており、治安は良いものの、人々は複雑そうな顔で彼らを眺めていました。多数のマスード將軍の遺影も目に付きました。

空爆の被害についてですが、市内中心部で破壊された建物を見ましたが、九月以前から壊れている建物の方が多く、廃墟の街という印象は変わりません。ジーパン姿の若者もいましたがほんの一部であり、多くは貧しいままの人々でした。

ブルカを被っていない女性には一度も会わず、恐らくカーブルが解放されたというのは裕福な一部の人達だけのことでしょう。

NGOの事務所が乱立していましたが、二三日の東京でのアフガン復興会議の結果待ちとのことで、殆ど活動は行われていないようでした。カーブルほど貧富の差を感じる場所も珍しいのではないかと思います。ジャララバードから見るとまるで別の国のようです。

しかし、気温は低いものの雪が降っておらず、私が寒いと言ってもスタッフからは「雪のない

カーブルなんて、暖かいぐらいだ」と言われてしまいます。六月に比べて新たに掘られた井戸も目に付きました。このままでは次の夏も早魃かんばちなのではないかと心配になります。

(目黒)

一月三〇日(水)

ジャララバード食糧配給チームからチャプahal地区での配給報告が届きました。また、ジハ副院長が二週間ぶりにアフガニスタンから帰ってきました。カーブルで日本人スタッフのアフガニスタン・ビザを取得し、ジャララバードで食糧配給作業を確認した後、シャラフ医師に任せての帰院でした。国境でのガードが厳しくなってきた

いるとのことでした。食糧配給チームはチャプahalで配給を終えた後、ラールプール地区の家族調査を開始して約二千家族に配給することになりました。一月二六日は小麦粉と食用油(小麦粉トラック四台分と食用油一台分)を満載したトラックが、早朝、PM



井戸枠で遊ぶ子供

Sの事務スタッフを乗せて昨夕集合していたカッチャガレイから出発しました。配給先のラールブルは蓮岡さん達の井戸掘り作業場がある国境のトルハムの近くです。

現在アフガン人は簡単にパキスタンへ入国できないので、スタッフが、いつもジャララバードからトルハムまでトラックの誘導に來ますが、この日は手違いで三時間くらい国境でトラックを待たせることになりました。病院ではあたふたしましたが、無事に配給先へ到着し、配給作業が開始されたと連絡がありました。

配給作業をしていたPMS検査技師が二六日に病院へ帰ってきましたので、翌朝、ナーシングルームに検査部と看護部のスタッフを集めて配給状態と、今年初めて配給したアチン地区での出来事を話してもらいました。アチン地区も蓮岡さん達井戸掘り隊が活動を展開している所です。以下その話。

「アチンで家族調査を始めようとしていた時、村人が、自分達の村でこんな出来事があったと話

した。ある夜中にその家の主婦が物音で目が覚めた。夫が家の屋根を支えている柱を鋸で切断している音だった。二本ある柱のうちの二本目を切っている所だった。夫は妻に、もう自分には妻や子供達に食べさせる物が何もない、これからどうやって食べさせたらいいのかあてもない、柱を切って屋根を落とせば家族全員一緒に死ねると思った、と話した。」

報告したスタッフも聞いているスタッフも涙ぐんでいました。この話を村で聞いた、食糧配給作業の監督の医師はこの家にスタッフを送り、事実を確認した後、小麦粉と食用油を多めに配給したそうです。アチンは厳しい旱魃^{かんばつ}のために作物が収穫できなかった地区の一つです。昨年中村医師と連岡さんがアチンで活動を始める時、「もともと岩石が多い上に巨大で大変硬いナチュラルコンクリートがあり、井戸を掘るには困難な所だがやってみよう」と話していたのを覚えています。

昨年一二月にマラリア診療チームをジャララバードへ送った時も感じましたが、アフガニスタ

ンの地図を見ると、私達PMSが井戸掘りや食糧配給、医療活動を行っている所はほんの一点でしかなく、食糧や水がなく、そのために病になり、その上治療できる所が少なく困っている人達が、アフガニスタン中にいるのかもしれないと、想像するだけで恐ろしくなります。どうかそんな人達が何か希望を持てるように助けてください。

(藤田)

二月二日(火)

トルハム国境近くのラールプールでの食糧配給が終了しました。今回はやや危険を伴う配給作業で、作業監督をしているシャラフ医師が毎回の連絡で激怒していました。状況がなかなか私達に伝わらないために、シャラフ医師にベシヤワールへ帰ってきてもらい、報告をしてもらいました。

配給作業や家族調査には必ず政府の治安局から警備員を派遣してもらうのですが、配給作業に入ると、いつもは警備員六名のところが四〇人程に

膨れ上がり、配給用の食糧を多量に要求するのだそうです。新政権後は、PMSの食糧配給活動に派遣された警備員が給与の代わりとして食糧を要求した場合は、少量を渡しても良いと中村医師の許可がありましたので（新政権樹立後彼らは無給で勤務）、ある程度は我慢していたようですが、ますます要求が大きくなってきています。

また、ラールプールでの配給が終わり、残った食用油を事務所へ運ぼうとした時、数人がトラックの運転手に武器を向けて阻止したそうです。シャラフ医師は「もしこの食糧を奪いたいなら私を殺してから持ってゆけ」とまで言い放ったそうです。この日の報告では、「ここには良い人間は一人としていない。みんなバッドアドミー（悪い人間）だ！」と怒鳴っていました。

ラールプールの人達が、残った食糧を運ばせなかった理由の一つには、他の地区へ持っていけるのが惜しいのと、運ぼうとしているPMSのスタッフが奪ってしまうのではないかという不信感もあった様です。これからは配給家族分のみをペ

シャワールから配送してみようと決めました。

今、アフガニスタンでは悲しいことに、住民がお互いに疑い合っていて、足の引張り合いをしており、本当に必要な家族に食糧が届けられるのだろうかと心配になります。タリバン時代、特にカーブルの悲惨な状態の家族への配給作業時はタリバン兵士達も賛同し協力していたので、PMSのスタッフ達はタリバンに対しては絶対的な信頼感があつたと今も褒めちぎっています。一刻も早くアフガニスタンが安定するように祈りたいと思います。

（藤田）

二月一五日（金）

その後のジャララバードでの仕事の経過を報告します。

昨日（一四日）暫定行政機構のカルザイ議長がジャララバードを訪問し、アブドウル・ハク（編註・カーブル陥落直前、タリバンによって処刑）の墓にお参りしたそうです。このため、内外の諸団体

が大挙して葬儀に参列しました。表通りだけでしたが、極めてものものしい警備態勢が敷かれ、ペシャワール会とPMSのバイク五台も、北部同盟の民兵がやってきて、徴用されました。人々は「カルザイがアメリカと共に来た」と噂していました。

治安が乱れに乱れて、北部同盟の軍民が一応治安を守っていることになっていますが、夜は強盗に豹変するケースが少なくありません。これは、治安部隊の給料がないので、傭兵^やとしても自給自足せざるを得ないからです。

さて、この四日間、ペシャワール会とPMSの東部診療所を見て回りましたが、何事もなく運営されています。ヌーリスタン地方のワマ、クナール州のドラエビーチでは、地域の長老会が決定して、診療所の建て替えを積極的に支持、犠牲祭の祝日（イード）明けにスタートします。

食糧配給の方は、北部同盟軍の略奪が激しくなったために、二月一〇日にこれを停止、イード明けから新方式をとります。手の届く範囲の公共

事業を興して日当として貧民に配給するのが早道です。

水源確保計画のほうは、少しずつ再編成が進んでいるようです。農業関係では、ドラエヌールを「モデル地域」に指定し、とりあえず一万八千方メートルの農地を「試験農場」として借り受けて待っています。

現在、東部ではジャラバードの都市近郊、サルシャヒー難民キャンプでわずかな活動が散見されるだけで、ほとんど外国人はいないようです。クナール州はほぼ独立状態で、以前私たちPMSの車輛を襲撃した地域の指導者が「防衛隊長」として取り仕切っている状態です。しかし、彼とは古いつき合いですので、かえってクナール州の方がPMSにとっては安全と言えます。ヌーリスタンに至っては「ヌーリスタン州」を名乗り、全く別の動きをしていました。

それでも、長老会を主体とする地方権力の構造は変わらないので、今度の一連の爆撃や政権交替劇はほとんどの人々にとって影響がなかったと言

えるでしょう。ただ、もたらされた「自由」とは、強盗・略奪の自由、麻薬栽培の自由、餓死の自由であって、事態はタリバンの出現した一九九四年以前に戻ったと言っても過言ではありません。

まもなくカーブルに発ちます。とりあえず、私たちの仕事がつつがなく進行していることを、急いで連絡しておきます。さようなら。

(中村)

二月一六日(土)

二月九日にアフガニスタンへ入られた中村医師より報告が届きました。

一行(中村医師、ジア副院長、目黒さん)は昨日カーブルへ向けて出発しました。政権交替後よりカーブルへ多くの医療援助団体のラッシュが始り、PMSのクリニックの必要性が少なくなってきたので、ゆつくりクローズして行く予定でした。しかし殆どの医療関係機関は全く機能しておらず、PMSのクリニックを続行して欲しいという強い要求がスタッフと住民からあったので、実

態を確認して来られるのです。

色々な情報が飛び交っています。二、三挙げると、タリバンがカーブルより去った後、一番初めに医療援助として来たロシアのチームは、診療器具器材をそろえ、診療の準備をしていたが、診療は始めずに全ての器具をアフガン新政権へ渡した後去って行った。インドが援助する病院もスタッフは自国へ帰った。PMSのカーブル・クリニックのスタッフの殆どが新政権の政府関係機関へ(公務員になるため)雇用手続きをしている。ラジオとテレビで「元政府職員だった者は復職するように」と呼びかけがある。政府の職員には小麦粉や食用油等が配給される等々。

PMSのタジク系スタッフ三名がそれぞれ新職場を求めて退職して行きました。退職予備軍と思われるスタッフも数人います。看護部にも退職した人と退職を考えているスタッフ達があります。落ち着いて状況をじっくり見てからの方が良いのではないかと話しましたが、パキスタンで何年も難民として不安定な生活をしていた人達にとって、

故郷で働けることは誰もが望んでいることです。から仕方がない感じがしました。

本物の平和が訪れることを祈らずにはいられません。

(藤田)

二月二日(金)

病院は二月一日から二四日までイード(犠牲祭)で休みになります。いつものことで、入院患者さんも自宅でイードを祝うために退院して行きます。らしいの患者さんは足の傷が完治していないのに退院しようとして毎年スタッフと言い争いになります。中には妥協してギプスを巻いて、いそいそと退院して行った患者さんもありますが、イードの時は親戚が集まるのでギプスなどを巻いていると恥ずかしいと言って(日本のようにスマートなギプスではないので)ただ包帯を巻いたのみの足で帰郷する人もいます。

カーブルに滞在中の中村医師一行と、山村地区やカーブルのクリニックの留守番のチョキダール

(門衛)を残し、スタッフ達は昨日病院へ帰院しました。

二月一六日夕方、医療器械と一緒にチェックしていただくために、永田医師と一緒にオールドバザールへ行きましたが、イードの準備の買い物客で大変な混雑でした。イードに屠^{ほふ}られる羊や牛、山羊の市も夜遅くまで行われていました。PMSでも、今月はイード前に給料を支払ってあげようと、中山さん達会計スタッフが全員日曜出勤をして準備しましたので、明日には支給されます。

蓮岡さん、目黒さん、大月さんもイードはベシヤワールで過ごすために、もうすぐ帰ってきます。私達日本人は少しずつお金を出し合って、アブラハムに倣^{なま}って羊を一匹屠って、家族と一緒に自宅でイードを祝えなかった患者さんとスタッフ達に振る舞いたいと考えています。

(藤田)

一月より本格的に再開された水源確保事業だが、計画を取り巻く自然環境は前年度と比較し良好と



水源確保事業の担当者蓮岡（中央。左は永田医師）

は言えず、また政権交替による地方での治安悪化は今のところ大きな被害はないが、夜間の警備の面で対策を迫られるなど今後の緊張を予想させている。

作業地の殆どの井戸では一年間で一・五メートル平均の水位の減少が確認され、二〇〇二年一月時点で既存作業地六四〇ヶ所中一二〇ヶ所で井戸が涸れていた。この状況下で現在再生作業を展開中だが、水位の下降は依然継続している。既存の作業地全域においての作業開始が次第に困難になってきており、今後は作業開始後一年以上経った井戸に関しての、住民達への再生技術指導と地元の機関を挟んだ上での引渡し作業が急務の課題になっている。

全体の方針として作業地を分散せず、局地集中を目指す。方向は東部方向にはアチン郡、北部方向にはグラエヌール。新規作業地を前方、再度再生作業地を後方と分け、両方向の作業を担当者をつけ双方で確実に進めていく。

（蓮岡）

三月七日（木）

ジャララバードより報告です。こちらは、短い春を足早に駆け抜け、日中の日差しはもう夏を思わせます。

昨年一二月の作業再開時には、一二〇の井戸が涸れていましたが、その後の再生作業で一〇〇以上の井戸が再び水を出すなど、徐々にかつてのペースを取り戻しつつあります。とはいえ、やはり三ヶ月に渡る事実上の活動休止期間の影響はあるようで、蓮岡さんもソルフロッド、ロダット、アチン、と駆け回っています。住民との揉めごととも少なくなく、対応に追われています。中には、涸れた井戸の再生作業を「ボーリングでないと掘らせない」と主張するなど、非協力的な態度を露わにする住民もいて、「共同作業」の意識の必要性を説明するのに苦慮しています。

ロダット郡では、そのような井戸が二五あり、近々地方政府を交えて長老達を集め、会議を開く

予定です。その場で、住民内での解決ができなれば、やむを得ずそれらの井戸からは撤退することになります。非協力的、ということは、現時点では幸いそれほど水不足は深刻ではない地域、ということもあるのでしょうか、再生作業も三度、四度と繰り返されると、作業をする住民の間にもグレが出てしまいうのが現実のようです。

今後の作業拡大に備えて、新しいエンジニア九名が採用されました。六五名の応募者に対して二度の筆記試験が行われ、最終面接に残った一五名の中から選ばれました。何人かのエンジニアは既に仕事を始めています。採用を担当したスタッフは、非常に優秀なエンジニアが集まったと満足しています。しかし、エンジニアとしての能力よりも、勢いとアクの強さを重視する蓮岡さんは、『優秀な』エンジニアばかり残ってしまった、やはり採用は面構えで選ばんといかん」と、今回の筆記重視の採用にはあまり納得していない様子です。

グラエヌールは目黒さんがカーブから戻り次

第、いよいよブディアライ村の灌漑用井戸でウォーターポンプ作業を開始します。夜間のポンプの盗難を防ぐため、スタッフが泊り込むためのテントも調達しました。ウォーターポンプが新たに購入でき次第、一基追加して二基態勢で作業を進める予定です。今回新たに採用されたエンジンアのうちの一人は、この灌漑用井戸の作業に従事することになっています。

ニングラハル州の隣のパクティア州では、ここ数日、米軍による爆撃が続いていますが、一〇〇キロほど離れたソルフロッド郡にも、スピンガル山脈を越えて爆撃音が届いています。パクティア出身のPMSスタッフは、今回の爆撃に関して、「例えるなら、PMSから一人アルカイダに参加したとして、だからといって、このオフィスを爆撃するようないふだ」と言っていました。

（現地連絡員・大月啓介。以下「大月」）

三月一五日（金）

お疲れさまです。

本日、蓮岡はペシヤワールに向かいました。藤田さんからの連絡ではボーリングの購入等のためラホールへ向かったそうです。ジア副院長はまだカーブルから戻っておりません。おそらく新しく購入した車輛の登録に手間取っているのだと思います。先日、私も車輛の引き取りのため日帰りでカーブルに行きましたが、その際にジア副院長から話を聞いたところでは、新政権の殆どの業務は滞りがちとのことでした。担当省庁に出向いても責任者不在を理由に毎回延期をされるそうです。その上一人一人が賄賂をねだるので嫌になるとこばしていました。一週間の滞在中も「カーブルでは午前中しか仕事にならない。早くジャラバードかペシヤワールに戻りたい」と言われています。なので、よほど苦勞をされているのだと思います。ブディアライ村では先日よりウォーターポンプ

でイリゲーシオンウィル（灌漑井戸）から水を出し始めましたが、最近の村人の話題はスイカの種の値段です。日本製の種も輸入されており高品質ですが高価で手が出ないと言っていました。それでも四年ぶりの耕作になるので皆うれしそうです。

（目黒）

三月二三日（土）

今年のアフガニスタンの新年は木曜日でしたので、月曜までは休暇にしております。

昨日（二二日）、グラエヌール・クリニック増設用地の仮契約を行いました。現在のクリニックの土地を東に四メートル、北に二三・五メートル拡張することになりました。計画当初の三倍近く土地を提供していただきました。

金額は月曜のミーティングで決定することになりましたが、三年間はその金額を継続することと、それ以後はもし通貨の暴落や所有者の心変わりがあったとしても適正な金額になるように、その広さの畑

から取れるはずの小麦の時価を上限とすることを契約書に入れておきました。

問題となったのは、現在その土地でケシの栽培が行われていることでした。所有者が別の住民に貸しており、その住民が栽培していたのですが、私が見ても見事なほどに育っており、栽培を中断させるのであれば収穫量を補償するか、二ヶ月後の収穫まで待つて欲しいと言われましたが、ヨセフと所有者（ヨセフの親戚）が一生懸命交渉して最終的に合意に達し、決定後すぐにケシの伐採が行われました。月曜にエンジニアを送り増築を開始します。

先日より国際機関が各学校で文房具の配布を行っており、ほとんどの子供に行き渡ったとのアナウンスがありました。調べてみるとマドラサ（寺子屋のような地域の教育施設）では配布をしていないことがわかりました。グラエヌールには四ヶ所の小学校と一ヶ所の高校があります。それ以外に二ヶ所のマドラサがあり、かなりの生徒がおります。学校は政府と国際機関の援助があるの

ですが、マドラサは政府の管理を受けているにも関わらず、村人の寄付で運営されているそうです。タリバン政権下ではマドラサと学校の区別がなく、グラエヌールだけでも二〇ヶ所近くあったそうですが、現在は二ヶ所にまとめられているので、以前お話があったマドラサの援助の件はすぐにも調査を始められます。

堤について相談した結果、かなり効果的だとの意見を得られました。灌漑用水の確保だけでなく地下水位も上がるそうです。月曜にグラエヌールにスタッフを送り、ヨセフの挙げた候補地を視察させる予定です。設計にはレベリングマシン（測量用の水平測定器）が必要ですが、ジャララバードでは手に入らず、ボーリングマシン（購入のためにラホールへ向かうエンジニアに見積を依頼しました。人材はブディアライ村出身の新しく雇ったエンジニアに担当させるつもりです。現在はアチン郡において研修中です。中村医師の指示があればすぐ始められるように準備しております。

アチンの事務所についてですが、以前蓮岡が住

民と交渉し、一年以上はPMSが事務所として使う合意を得ましたが、最近になって政府から学校を再開するので返還するようにとの要求が来ました。月曜にオフィスの人間を送り交渉させる予定です。

（目黒）

三月二十四日（日）

カーブルの報告です。

ワークショップが開始されて一週間ほど経ちます。トレーナー、訓練生共に、熱心に作業を進めています。訓練生は、寡婦・あるいは父親を持たない者、経済状況の厳しさ、をポイントに、一二歳〜三五歳の一六人が選考されました。夫が病気で失業中、という女性も含まれています。採用された一六人の訓練生のうち、四人はナウローズ（アフガニスタンの新年）後に再開される学校に通うことになったので、ワークショップを離れることになりました。しかし、既に新たな訓練生が決まり、作業を始めています。トレーナーは裁縫技術、

読み書き能力、人柄等をポイントに選考し、二〇歳代から四〇歳代の八人が採用されました。一ヶ月の試用期間を経て、正式採用される予定です。

朝の八時、PMSの迎えの車でトレーナーと訓練生がワークショップに集まります。ワークショップは、PMSカーブル・オフィスとして使っている建物の一階に手を加えて利用しています。訓練生の中には、裁縫が全く初めてという女性もいて、今は皆、手縫いで裁縫の基礎をひたすら練習しています。トレーナーは、空いた時間に、八台のミシンを使って子供服やテーブルクロスなどを作っています。八台のうち二台は、刺繍のできるミシンを購入しました。

ワークショップは一時半までですが、最後の三分は、訓練生を対象に、読み書き講座にあてられます。訓練生の中には読み書きは全くダメ、という女性もいて、これからテイラーとしてしっかりした仕事をしていくには、読み書きが必要、という判断からです。トレーナーの一人が指導をし、初日はアラビア文字のイロハから始めていました。

訓練生の最年少、一二歳のシャヒカは、昨年一〇月の空爆で父親を亡くしました。家族は彼女を含め五人で、母親、七歳の弟、四歳と五歳の妹がいます。母親は洗濯の仕事をしていますが、一日約一五ルピーの収入で、とてもやっていけない状況とのことです。母親は彼女には非常に期待しているようで、早くここで技術を身につけ、家族が食べていけるようにがんばれ、と常に言い聞かせています。彼女が家族を養わねばならないことは明らかですが、まもなく再開される学校の話になると、シャヒカは顔を伏せて、言葉少なになつてしまいました。しかし、「学校には行きたいが、このワークショップで働けるのは嬉しい。ここで訓練して、いつかテイラーになりたい」と話していました。

トレーナーの四〇代の女性は、九年前、夫を内戦で亡くしました。現在は、一〇代の五人の子どもを彼女が養っています。このワークショップに来る前は、裁縫の内職をしていました。遠縁の親戚がたまに援助をしてくれていましたが、毎日の



カーブルの裁縫ワークショップ（2002年6月閉鎖）

ナンを買うので精一杯の生活だったようです。二〇代のトレーナーの女性の夫は、三年前にイランに出稼ぎに行ったまま音信不通となりました。今までは、彼女がやはり内職でキルトの布団などを作り、子どもを養ってきました。子どもは一〇歳の男の子を先頭に六人いますが、「子どもたちを働かせるわけにはいかない、長男は学校に通わせるつもりなので、私が稼ぐしかない」という状況です。子どもの一人は昨年の空爆で手を失い、目にも異常が残り、とても困っているが、ここで働いて何とかやっていく、と語っていました。

一三歳の訓練生は、父を三年前、病気で亡くしました。その後は、一五歳の長男が靴磨きをして家族を支えていました。家族はその他、母親と三人の妹がいます。兄は今も靴磨きをしているが、近々学校へ通う予定なので、収入が減り、彼女も働かなければいけなくなりました。

スーパーバイザーのDr・サリハは「今のところ、ワークショップは順調にいつている。慌てる必要はない、まだ販路は確保していないが、今は

とにかく技術を身に付けることと、ここでの仕事に慣れることが大切」と言っていました。(大月)

三月二十八日(木)

お疲れさまです。

二六日、中山君がジャララバードに来ました。

これで手分けしての活動ができるようになりました。私はグラエヌールとアチン郡、中山君はソルフロッド郡とロダット郡を巡回管理することになりました。

昨日、シャラフ医師がカーブルから戻りました。

「妊婦及び栄養失調児への食糧配給」は順調に進み、詳しくは東部三クリニクの配給が終わってから報告するとのことです。本日早朝にグラエヌール・クリニクに向けて出発しました。

アチン・オフィスの返還要求の件ですが、学校の責任者が非公式に五ヶ月間の使用を認めてくれました。アフガニスタンの教育制度は地域によって少しずつ異なります。低地の猛暑地域では六月

からの三ヶ月が夏期休暇になり、カーブル等の高地の寒冷地域では冬の三ヶ月が休暇になるそうです。この夏期休暇が終わるまでに別の場所を探して欲しいとのことでした。

日中は日本の夏ほどの暑さになってきましたが夜はまだ肌寒く、今は季節の変わり目の特に厳しい気候です。スタッフの親戚だけでも四件ほど不幸が続いています。

本日、スタッフハウスのオーナーがオフィスに来ました。現在のスタッフハウスの裏にある家も貸し出すことにしたので、まず我々に報せてくれたのです。

昨日、中山君はロダットを視察してきました。元々、彼が長く滞在していた場所でもあるので、住民も中山君を覚えており、士気も上がると思われます。中山君が心配していた井戸も完成しているところが多く、本人も大喜びでした。

私は三〇日からグラエヌールに戻り、二泊ほどして状況を確認してきます。たくさんの方の予定があり忙しくなるとは思いますが、とても楽しみです。

ります。現地一同、頑張っておりますので、日本の皆様によりしくお伝えください。

(目黒)

三月三〇日(土)

お疲れさまです。

二八日、アチン・オフィスに教師が訪れ、土曜日までにはオフィスを移動するようにと伝えてきたそうです。学校を再開するためと言いながら「文房具を援助するなら継続して使っても良い」と言ったりしていたそうなので、私自身が行って状況を確認してきました。

真相は先日米国際機関が文房具の支給を始めており、二重に配給を受け取って横領するために我々を立ち退かせたかったようです。エンジニアと共にアチンの地方政府に赴き司令官と話し合いを持ちました。司令官は「人々のために働いてくれているのだから、人々も協力するべきだ」と言い、今後問題が起きたら彼が仲介に入って解決することを約束してくれました。

地方政府には私の顔見知りのグラエヌール出身の者が働いており、ブディアライ村の灌漑井戸の話が出ました。他の場所でも始めてほしいと彼が言うと、司令官が「彼らは計画を立てているんだからそれ待たすべきだ」とたしなめました。彼の協力でオフィスの問題は一段落しました。

ICRC(国際赤十字委員会)クリニックのそばに掘っていた井戸は既に完成し、ハンドポンプもついております。灌漑井戸は規模が大きいために掘り進むのも困難であり少し遅い進行ですが、先日水曜日のデータでは、作業時間中にポンプを回した時間の合計は一時間四〇分でした。まだまだ一日中水を供給するレベルには至っていません。今日はアチンの問題があったためグラエヌールには行けませんでした。給与支給は中山君が代わりにグラエヌールに行ってくれました。明日にはグラエヌールへ向かい新しい地域の井戸の場所の選定と交渉を行います。

(目黒)

四月一日（月）

お疲れ様です。三月二六日よりジャララバードに来ています。ペシヤワールでの会計業務は、私に戻るまで藤野さんにみてもらっています。

この数日間のうちに目黒さんよりアフガニスタンの現況、WSP（水源確保事業）等、PM Sの活動についての現在の状況を説明していただいた上で、ジャララバード・オフィス、ロダット郡を視察しました。その中で私が感じたこと、又実際に発生している問題について報告させていただきます。

現在ソルフロッド郡、ロダット郡での井戸掘削作業は、再掘削中の少数の井戸を残してほぼ終了している状態であり、大多数のエンジニアはアチン郡に集結、活動を行っている。前回、目黒さんからのレポートで、幾つかの井戸で労働者が以前に比べて非協力的であるということを報告してきたかと思う。実際にロダットにおいて、そのあた

りの状況をオフィスの責任者に聞いてみたところ、解決に向かっているところではあるが、幾つかの井戸で発生しているということであった。その理由として幾つか考えられる。

（１）ロダットは他のエリアよりも比較的中心都市（ジャララバード）に近いこともあって多数のNGOが入ってきており、住民たちがNGO慣れし始めている（NGO団体が何でも要求を吞んでくれる。何でもしてくれると再び思い始めている）。

（２）問題の起こっている井戸はすでに何度か再掘削を行っているところばかりで、労働者達がダレ始めている。

その他にも幾つかの原因は考えられるが、大きくはこの二つによるところである。（２）の問題について実際に現場に行ってみたが、今の掘削が四回目だという所もあった。エンジニアに聞いてみると、とにかく水位を確保するのが難しいとのことであった。

以前私がこの地に配属されていた頃から、これ



グラエヌールの灌漑用井戸。1基で18ヘクタールを潤す

らの井戸は同じ問題を抱えていた。なかなか水が出てこない井戸であつたし、出てきてもすぐに涸れてしまつていた。現在の井戸の深さは五〇メートルに達しようとしている。井戸が涸れる理由としては周囲の人口が多いことなどが考えられるが、真相はエンジニアにも分ならず「涸れては掘りなおす」の繰り返ししかないとのこと。

エンジニア達は「どうすれば、もっと住民たちとの協力体制がとれるか」という問題について各々自分の意見を持つており、この問題を解決しようとしている。その中には「この場所は他の場所に比べると容易に水を確保できるようになったし、他のNGOも入ってきた。現在掘削中の井戸が終了し次第、事務所を閉鎖してはどうか」という意見もあるようだ。

一方、ジャララバード統合オフィスの状況はというと、大小さまざまな問題が毎日のように発生しているが、職員全員で必死になって解決しているといった状況である。事務長が体調不良のため副事務長が事務的問題に取り組んでいるが、あま

りの仕事量にプレッシャーを感じている。人員不足のうえ、彼のようにアレンジできる者が他にいないということもあって、彼の仕事量は一向に減らせそうにない状況である。今後さらに忙しくなるであろうことを考えて、目黒さんも少しでも彼の仕事を減らそうと、人員の確保、教育を考えている。

人員不足は会計セクションでも発生している。

現在、二人が会計作業を担当している。井戸の周囲から臨時で雇う労働者への給料日が月二回（二週間に一度）、その他常雇いメンバーへは月に一度の給料日がある。会計担当は、延べ一四六〇人分の給料を準備していることが分かった。もちろんそれとは別に毎日の支出の準備、チェック、月間会計報告作成など多大な量の仕事をこなしている。給料の準備については、勤務時間内での処理では到底間に合わない。会計担当が深夜までかけてある程度準備、さらに周りにいるエンジニアたちの協力を得て、ギリギリ準備完了といった感じである。今後他のプロジェクトが本格的に始まる

ことを考えると、これもまた人員の確保等、早急な対策が必要である。

ロダットに行った時、白い雪が山頂に積もっている風景を目にしました。今年は去年に比べると降雪量は多いようで、誰に聞いてもその様な答えが返ってきます。日中の気温は日ごとに上がり始めています。少しでも長く、この白い風景が続くことを祈るばかりです。

（中山）

四月二十四日（水）

ソルフロッド、ロダット、アチン各郡で問題になっていた、ケシの刈り取りを実施する政府と住民との争いは、一ジェリブ（二千平方メートル）三五〇ドルの補償金で概ねの合意が成立し、住民自身を使つての刈り取りが実施されている。また、最も対立が激しかったホギヤニ郡では、収穫の半分を補償する特別な妥協案が政府から出され、住民がこれに合意した。

現在住民達を使つての刈り取りがソルフロッド

郡で行われている為、進行中だった二〇ヶ所中一五ヶ所が作業を停止。アチン郡では政府の刈り取りが始まっているが、住民達は収穫を急いで早朝と夕方に作業を行う為、井戸掘り作業は通常どおりに行うことができず、全体の三割ほどは住民達の可能開始日を設定した上で一時停止状態。

全体で、雨による小川が流れ、灌漑に利用されている風景を見るが、住民達が使用する飲料用水は未だ以前の状態で、数キロの道のりを徒歩で水を汲みに行っている。またアチン郡では帰還難民からの陳情が最近特に増えている。

ドラエピーチ、ワマの診療所建設にあたっているエンジンニアが帰還。最初に建設予定のドラエピーチ診療所の基礎工事の見積をし、二四日よりエンジンニアが現地に行き、現在進行中の地均しの様子を確認し作業を開始する予定。物品購入、支出管理はサルフラーズ氏より行われる。(連岡)

注記……ケシの栽培はそれまで禁止されていたが、タリバン政権崩壊直後よりアフガン全土で再

開された。現政権もケシの栽培を禁止しているが、そのことを巡って住民と政府軍で戦闘行為もあり緊張していた。単位面積(一ジェリブ＝二千平方メートル)当たりケシは六〇万円、小麦だと八千円の収入で、この背景には貧困問題が存在する。

(ペシャワール会事務局)

五月七日(火)

お疲れさまです。

ドラエヌールにて私の帰国期間中のアレンジをしてみました。その内容です。

(1) 帰国期間中の農業計画のコントロールはヨセフが行う。ただし、一時的なものと限定することが条件である。水源確保計画との同時進行はヨセフにかかる負担が大きすぎる。

(2) ブディアライ村及びカライシャヒ村のパイロットファーム(試験農場)にそれぞれ一人ずつ農民を専属として雇う。農民の選択はヨセフによるものとする。他のNGOが同様

の計画を行う時に雇用した農民に従事させるのをモデルとしたものである。一ヶ月あたり三千ルピーの給与とする。

(3) 種まきを行う際の指示はグラエヌール従来の方法よりも労働力が必要になるので、ヨセフが必要と判断した場合は臨時にレイバーを雇う。日当は水源確保計画のレイバーの日当と同額とし出欠確認も同様のシートを使う。

(4) パイロットファームの起耕区でトラクターが必要になった場合はPMS負担でレンタルする。

(5) それぞれのパイロットファームの地主にはグラエヌールの時価に応じた賃賃料を払う。この契約は本年度のトウモロコシの季節より始まるものとする。

以上です。

本日、カライシャヒ村のパイロットファームは簡単な見取り図を作ってきました。後ほど送ることにします。両パイロットファームの正式な図面も作るように指示をしておきました。

農民を雇用する方法はアショクラーが働いていたマデラというNGOの方法を参考にしました。本来であればPMSのエンジニアが指揮をとるほうがよいと思ったのですが、今後、専属のスタッフが決まってから軌道修正することにしようと思います。

(目黒)

五月八日(水)

農業計画は着々と進んでいるように見えますが、頼もしい限りです。

以下の点を留意の上、現場サイドから意見を持った方がよいと思います。

(1) 農業指導の場合、常駐が原則です。農法は各地域でかなり異なり、日本側もまだまだ実情を把握しようとしている段階です。それまでは、その地域のやり方を踏襲するのが無理です。

(2) 常駐がない場合、指導不足、考え違い、連絡もれが必ず起きていて、いちいち指導を

仰いでいると、大変でもあるし、時期を逃すこともあります。そこで、何か具体的なことで分からぬことがあれば、「グラエヌールでは普通どうするのか」尋ね、待てぬ場合はグラエヌールのやり方を踏襲して待つべきかと思えます。

(3) 農業の場合は、大昔から地域に根付いたものがあります。アフガニスタンの乾燥地帯は、東南アジアや日本とはずいぶん違って、直ぐには何でもこちらの夢がかなうとは限りません。ゆるりゆるりと保守的に行きましよう。注文とは異なっている、後で補正はききます。

(4) 現在のペースでは、おそらく秋頃に、日本側の協力態勢が出来上がると見えています。以上を念頭に、当分、地元の知恵を借りたが良いかもしれません。

ところで、灌漑用井戸はどうなりましたか。楽しみにしています。

(中村)

五月二〇日(月)

アフガン東部では小麦の刈り取りが始まり、村々ではトラクターを使った脱穀機が勢良く動いていて、去年には見られなかった収穫の活気がどこにいても伝わってくる。今年のような収穫は三年ぶりとのこと。春先に降った雨が好影響を及ぼした。

水源確保事業は場所により小麦の収穫時期が重なり、ソルフロッド郡の進行中井戸は約半分が中断状態。これらは収穫後再開される。ロダット郡での大まかな作業は完了し、四台のウォーターポンプと六インチボーリングを残しアチン郡の作業に合流予定。以前見られた住民間の問題も作業と水位の安定と共に解決したとのこと。

アチン郡ではロヤ・ジルガ(国民大会議)選挙の投票権をめぐり、地主同士での戦闘が発生し数人の死者が出て、多少の緊張状態があったが、作業そのものには影響はなかった。現在、数を絞り

込んだ作業地決定をしつつ、六インチボーリングを導入した作業による合理化を試している。また六〇メートル以上の井戸が九本になり、(落石)防御板の強化、頑丈なヘルメットの使用、エンジニアの特別監視などを行い安全強化に努めている。最も深い井戸で七〇メートルに到達した。住民間で安全対策を協議し、井戸壁の補強などを実施した後二メートルだけ継続する予定。

作業地全域では場所により異なるが、全体として徐々にではあるが水位の上昇が観測され、本格的な夏の到来を予感させる。

ドラエヌール、ドラエピーチ、ワマの診療所の建設工事は問題なく進行中。ワマでは地均しが来週中に終わる予定。ピーチでは土台の土盛り、基礎工事が開始された。二一日より連絡員が現地に向かい、作業連絡を行う予定。ジャラバード統合事務所建設工事は外壁が終わり、屋根部分の建設に取り掛かった。完成は二ヶ月後を予定。

トルハムの井戸は一本目の掘削工程が終わり、ケーシングパイプを挿入、ウォーターポンプも装

着し、現在ポンプとエンジンを保管する倉庫を建設中。一週間後に完成予定。その後は政府によってパイプを使った配給が考えられているが、タンクについては検討中。政府の計画に委ねられる。現在二本目の掘削が国境手前二〇〇メートル付近の河寄りの位置に開始された。(蓮岡)

六月一日(火)

お疲れさまです。

カーブル完全撤退は一七日、極秘裏に進めております。

ジャラバード事務所は人的問題から機能不全に陥っています。明日小生が直接乗り込んで、「臨時管理委員会」設置で一時的に切り抜けようと思います。立て直しはカーブルが片づいてからですが、六月一九日からの数日間が分かれ目となります。

今後どうなるか、不安に思われる向きもありかもしれませんが、余りに流動的な状態で、小生にも予測

がつきません。おそらく、六月下旬の状態で判断できるようにあります。ただ残された作業地は何としても完了、恥を残さぬようにいたします。

新政権の規定でアフガン人の往来が困難となり、ビザとパスポートなしの職員滞在が不可能になりつつあります。この場合、ペシャワールを拠点として、両国にまたがって活動するという大前提が崩れることになり、相当な影響が出てまいります。また、かつてタリバン時代に小さくなっていた連中の嫌がらせ、非協力も目立ってきています。決して悲観的になっていませんが、かつてなく大きな試練だと考えられて結構だと思います。

「軍旗を焼いて玉碎」といいたいところですが、もうひと辛抱したいと思います。

(中村)

六月二六日(水)

六月一日より、アフガニスタン東部三診療所とカーブルのスタッフ交替に、二週間同行した。交替は無事終了。本格的な夏季が近づき、マラリ

ア・シーズンが到来している。五月に滞在していたスタッフの報告によると、ドラエヌールとドラエピーチ各診療所では、例年並みにマラリア患者が増えていく模様。

ドラエピーチ診療所の検査技師の報告によると、「検査を受けマラリア患者と診断された数は、五月が一七〇名。昨年は一五〇名。検査を受けず症状だけで診断され投薬を受けた患者は、その数を超える。」

私が滞在した二日間だけで、二名の子供と一人の女性が日没後の診療所に、マラリアと疑われる症状で運び込まれた。

難民帰郷による農村の人口増加。昨年を上回る収穫と、次期に向けての水田の増加。さまざまな要因が重なると、九三年に起ったドラエヌールでの「マラリアの恐怖」が、一、二年後危惧されるのではないかと感じた。

私の郷里の福岡県八女^{やめ}の棚田に似た景色が、ドラエピーチ溪谷^{たに}一带に広がっている。そんなことを思い出しながら、収穫で忙しい人々の脇を駆け



破壊されたカーブルの市街地

抜け一路ヌーリスタンへと向かった。

グラエピーチとヌーリスタン・ワマ新診療所の建設現場は、現場責任者スタッフとの連絡不足により一時工事中断、設計変更などがあり数日間作業が進んでいなかった模様。ペシャワールから派遣されたエンジニアによって、工事再開と変更が進められている。

グラエヌールの新しい診療所の建設工事は基礎工事が終わり、壁や柱を建てる作業に取り掛かるうとしている。グラエピーチも基礎工事了間近。ヌーリスタン・ワマは新診療所のすぐ側に川が流れており、堤防側壁の工事に時間が掛かっているよう、基礎工事と共に継続中。

六月五日、カーブルに到着した。ロヤ・ジルガ（国民大会議）開催前の首都は、国際治安支援部隊（ISAF）とアフガニスタン警察の警戒が非常に厳しかった。市内は特に混乱はなく、臨時診療所と裁縫ワークショップ等のプロジェクトは、これまでどおりに仕事が行われていた。

カーブルに向かう道中、パキスタン側から来る

難民帰還の渋滞の列と重なった。ロヤ・ジルが開催を前に、多くの難民がカーブルに帰還していた。市内は日増しに人々が集まっているようだった。

アフガン人スタッフの一人が「ロヤ・ジルが終わり、新しい政府が樹立すると、より多くの難民が帰還するだろう」と言っていた。

しかし、市内は依然として廃墟が目立つ。家賃高騰の影響から、住む家のない人々が大勢いる状態だ。ロヤ・ジルが会場前の道路を、ドイツのNGOが補修を急いでいたぐらいで、カーブル市内での目立った復興活動は進んでいないと思われる。一月の目黒さんの報告で、「廃墟の街の印象」とあった。それから五ヶ月たった現在でも、依然として私も同じような印象を受けている。

また、援助団体集中による物価上昇の影響から、食料や生活条件など物質的にははだしく欠乏している人々が大勢いる。高級レストランや国際援助団体のオフィスの前で、貧しい人々が物乞いをする。UNや何とかNGOなどの派手なロゴを付けた車が、市内で列を作って移動する様子は、復

興博覧祭のパレードでも見ているかのように感じた。

政治の安定は不可欠だが、激しい貧富の差に苦しむ貧しい人々の安定が優先されるべきだ。緊急ロヤ・ジルガにおいて、彼らの安定が約束される緊急な議論がなされたのだろうか。

（現地連絡員・川口拓真。以下「川口」）

七月三〇日（火）

カーブル、目黒さんより交渉結果の報告が入りましたのでお伝えいたします。企画省との交渉は意見の相違が非常に多く、結果、解決には至らなかった。

目黒さん、藤井さんの説得にもかかわらず、企画省側はカーブルにおける診療所の再開を要望してきた。

企画省側の要求に対しては、目黒さんの判断で決定出来る範囲ではなかったため、次回ダイレクターである中村医師が直接、交渉にあたるという

ことを企画省側に告げ、交渉を終了した。以上が結果です。

本日、目黒さんはジャララバードに戻られます。

(中山)

八月二日(金)

日本側事務局のみなさん、お元気ですか。

仕事は何事もなく、無事に継続されています。

とくにグラエヌールの農業用水の効果は圧倒的で、カレーズ(地下水路)でカバーできなかった半砂漠地帯を緑化しつつあります。灌漑井戸一基で面積、最低約一八ヘクタールが確実に潤います。第二号井戸でも水が出ています。五号までが一月中に完成すると、砂漠化した村に強制的に返された「帰還難民」約二万人が自活できます。

しかし、全体のアフガン情勢は思わしくなく、これから秋になると人の流れの逆流が起こり始め、何らかの大きな動きが出てくると判断しています。特に東部では、反米感情が日増しに高まっており、

米兵を何者かが狙撃する事件、逆にクナール州では検問所を設けた米兵が住民を射殺する事件が続発しています。

パキスタン側の自治区の様子は殆ど伝えられていませんが、米軍に対する攻撃が盛んになるのは時間の問題のようです。

カールでは、確認はされていませんが、外国治安維持軍兵士を相手にする売春組織が出来、「慰安所」が設けられたとの噂が流れています。

アフガン新政府は「米国の傀儡かいらい」との認識が一般民衆のとらえかたで、外国軍が手薄になれば反撃が始まると見えています。最近やっと「ニューズウィーク紙」が報道した「コンテナ大量殺戮」は実は氷山の一角で、パシュトゥン人か北部の部族かを問わず、すでにアフガン中で知れ渡っていて、誰もが怒りを持っているようです。

外国NGO、国連組織は地方で活動できず、「治安維持軍の地方展開」を求めています。そんなことをすれば経済的負担と危険が増すので、点と線をかろうじて維持しているのが実情のよう

です。欧米人は、アフガニスタンはもちろん、パキスタンでも安全な場所がなくなっています。それに、軍隊に守られてまで強行する復興支援とは笑い話以外のものではありません。

PMSIIペシャワール会は、現在拠点を山岳地帯に移し、しばらく高みの見物と言いたいところですが、早魃^{かんばつ}状態はひどくなっています。

いずれにしても、今秋に大きな情勢変化が、飢餓難民のユーターンと共に起きてくる可能性が高まっていると見ています。

(中村)

八月四日(日)

お疲れ様です。

ダラエヌールでは昨日(八月三日)、アチン郡のエンジニアを二人連れて行き、長老達の同席の上でお祈りを行い、本日より掘り始められています。今回は直径四メートルの井戸を二ヶ所始めましたが、片方は四メートルの深さで水が出る事が確認されている場所なので、作業は一月の種ま

きに充分間に合います。近いうちにもう二本の作業を開始させます。

(目黒)

八月九日(金)

お疲れ様です。本日、正午過ぎに起きたドロクタでの爆発事故について現在、目黒が把握している状況だけ報告いたします。

ドロクタはジャラバードから一〇キロほど離れた街で発電所とダムがあります。正午過ぎにジャラバードのスタッフハウスでも数人の日本人が爆発音を聞きました。

一時間ほどしてから報告を聞き、ジャ医師がその時間にカーブルへ向けて出発した事とスタッフ数人の家がある事から目黒と長嶋が現地へ向かいました。現地でジャ副院長の無事が確認され、すぐそのままカーブルへ向かわれましたが、PMSスタッフのエンジニア・ムジブラフマンの親戚で男性が一人、子供が二人亡くなっていました。

爆発後一時間経っていたはずですが、周囲は土



ドラエピーチ診療所の移設新築を地元住民に伝える中村

煙が舞い上がっており、NGOや政府の救急車が救援活動を行っていました。その時点で犠牲者は五三人と聞きました。多少、情報が錯綜していましたが、道路建設のNGOであるACLUでの爆発であると聞きました。

その後、多数の兵士がジャラバードから集まってきたので我々は引き上げましたが、あとで入った情報ではカーブルから爆発物を積んだ車輛が到着し、検問所の兵士が制止しようとしたが振り切ってACLUの事務所に入って爆発したともありました。が、これは未確認の情報です。

現時点では事故かテロかは確認されていません。日本人スタッフは全員無事です。ので心配は要りません。しかしジャラバードの街は情報不足のため緊張しており常設されている検問所の兵士も殺気立っていました。

以後、日本人スタッフの外出は控えております。

(目黒)

八月二一日(日)

お疲れ様です。

ドラエヌールの灌漑井戸は三本目が中止になりましたが、これとは別に三本スタートできるように場所を選んでいきます。近いうちに私が場所の確認を行い、シャラフ先生とともに交渉を始めます。タービンポンプが既に四台そろっていることはお伝えしましたが、エンジンも一台目が到着しました。続いてあと三台届く予定です。

ジア副院長がカーブルより戻られ、先ほどペシャワールに出発されました。問題は解決されたと言っておられました。詳しくはペシャワールから連絡があると思います。

国境のトルハムは作業の進行が遅いのでエンジンアをアチンから交代させました。レイバー作業員も四人のうちの三人を入れ替ええました。本日、大月君がトルハムを視察してきました。住民はPMSのエンジンアが来ると水が供給されることを

知っており今日も多くの住民が集まったそうです。順番待ちの中でトラブルが起こり、殴り合いにまで発展してしまい、同行のエンジンアが水を止めて警告したそうです。エンジンアと大月君の意見でアフガン政府に引き継がれるまでの間は、常駐するエンジンアの管理で水を供給することが話し合われました。朝と午後の二時間ずつでエンジンアが管理できる範囲の供給にしようと思います。中村先生の同意が得られれば明日からでも始められます。

ドロンタの爆発事件がNGOの事務所内で起きていた事をシャラフ先生が心配していました。政府による調査が行われる可能性があるのですが、爆薬はジャララバード・オフィスには保管せず、アチンとドラエヌールにのみ保管することになりました。バザールでも爆薬は入手可能なので少量の保管は問題ないはずですが、問題の種になりそうな事は整理しておきます。

今日で四日連続になるのですが、ドラエヌールから住民の代表が私を訪ねてきました。それぞれ

別の地域の出身者で今日はスータンからでした。シャーフ先生とともに会談し、定期的に調査しているというシステムを説明すると、納得して友好的に帰っていきます。スータンの代表者はドクターで、長くペシャワールで難民生活をしていたそうです。ドラエヌール上流部の飲料水を陳情していました。

現在のペースで作業をしていくと、カライシヤヒ村から彼らの地域までの間で二年以上かかると思われます。アチン郡の作業が終わり次第、上流部を別に始めたほうが良いかもしれません。次回ドラエヌールに行く際に上流部の状況を見てこようと思います。

(目黒)

八月二十九日(木)

高橋様、お元気でお過ごしでしょうか。本日福岡より高橋さんからのファックスが届きました。ジャララバードの農業部門に届けます。

二六日、農業担当の橋本くんが私達の病院へ入

院しました。A型肝炎です。以前からの発熱、下痢、体重減少はこのせいだったようで原因がはっきりして治療が出来るので安心致しましたが、最低でも一ヶ月は安静を守らなければならないと思います。彼は今でも体が動かせることで樂觀していますのでがっかりするだろうと思います。まだ治療期間等は説明をしていません。近日中に説明をしようと思っています。

その前に高橋さんにこれからの作業予定を教えて頂いた上で、他の日本人スタッフを送る事も考慮したいと思っています。お忙しいところ申し訳ありませんが、これからの橋本くんの作業予定をお教え下さい。現在は目黒さんが橋本さんの仕事を兼任して行なっていますのでご安心ください。

(藤田)

橋本様、悪い予感が当たって、やはりお加減が悪い模様、まずはお見舞い申し上げます。焦る気持ちちは分かりますが、先は長いのですから十分休

養されてから復帰してください。

パイロットファームの各圃場^ほ面積有り難うございました。これで計算して次回に種子を持参します。どうか十分静養してください。

(農業指導員・高橋修。以下「高橋」)

*高橋氏は二〇〇二年以降、農業計画を技術的側面から援助する目的で、随時現地を訪問している。

九月二日(月)

中村先生、お疲れさまです。連絡です。

医師不足の為に、グラエヌール診療所に今月はジャラフ先生が赴任しました。ジャララバード側は、グラエヌール診療所であれば必要な時にはすぐに事務所へ駆けつけられる距離にあるので何とかなるだろうとの事でした。パキスタン人のカムラン医師が試験勉強の為に三ヶ月休暇をとっている事もありますが、医師を雇用するか、または診療所派遣を、検査技師やナースのように一ヶ月お

きにするかを検討しなければならなくなっています。

教育担当のアルシャドカマルが突然退職しましたので、七月末から始まっていた新トレイニー(研修医)達のプログラムをどうしようかと一時心配しましたが、彼の退職後いろいろ調べたところ、時間割上は二五時間あったにも関わらず、二章しか終わっていませんでした。九月から新しい時間割を準備して再開しました。彼の退職後に生徒からの訴えで教科書がまだ準備されていなかった事が判り驚きましたが、頭が良いからとあんまりスタッフを過信するのは良くなかったと反省しています。

橋本君は入院続行中です。下痢も治まり思ったよりも黄疸はひどくならず食事はおかゆと柔らかい物をとっています。元氣そうにしています。食欲はまだそう良くなく、げっそりして見えます。

現在、病院で川口君にこれまでとこれからの作業の説明をしている所です。一週間程で引継ぎを終えた後、川口君はジャララバードに向かいます。

目黒さんが川口君に農業関係のスタッフを紹介、農園への案内その他の説明を済ませた頃に橋本君がジャララバードへ戻る。橋本君はジャララバードで安静にしながらグラエメールとジャララバードを行ったり来たりする川口君へ仕事の指示をする。以上のような計画で動いていますが、先生が言われたように橋本君をジャララバードへ帰すかどうかは仲地先生の診察後の判断に任せます。

仲地先生のラシュトからの帰りは二、三日遅れそうです。ラシュト診療所の薬品棚と治療室（外来と検査室の間の壁の一部をくりぬくだけ）を作る為に病院から大工が行きましたのでその作業が終わってから帰って来る予定になっています。

今日はアフガン国内診療所のスタッフ交代日で早朝に出発しました。最近国境手前のランディコートルで住民が道路を封鎖する事が多くなっています。国境トルハムまでたどり着くのが遅くなっています。先週は目黒さんがペシャワールへ来ましたが「住民が武装していて興奮している奴がいた、正直言っちゃってと恐ろしかった」と言っ

いました。なかなか静かに、そして容易になりません。
(藤田)

九月四日（水）

お疲れさまです。報告が遅くなって申し訳ありませんでした。

一昨日より体調を崩してスタッフハウスにて休んでいました。明日よりペシャワールへ向かいPMS病院にて検査を受けます。ディグー技師も体調を崩していますので一緒に連れて行く予定です。グラエメールのスタータン村での交渉自体はうまくいったものの、現在使用されている道のそばの土地所有者が提供に同意できなかったため新規に道を作ることも含めて長老達の決断を待っています。

グラエメールの灌漑井戸は現在合計五本になりました。二本目ではすでに水量が二メートルを超えており二台目のウォーターポンプを入れての作業がもうすぐ始まります。



グラエヌールの試験農場にて

橋本君はペシヤワールにて静養中です。現在、川口君への引継ぎを行っています。（目黒）

九月一五日（日）

中村先生、お疲れさまです。

（１）ディクター技師は一二日に退院し、目黒さんも元気になり、翌一三日、二人ともジャラバードへ帰りました。また橋本君も病棟からゲストルームの方へ移りました。一四日、川口くんはジャラバードへ移動し今日は目黒さんや大月さんもグラエヌールへ行き収穫祭に参加。

（２）ジャラバードの会計担当のアジマル（コンピュータ・オペレータ）がUNに雇用が決まり退職。国連の彼の給料は高く一万八千ルピー（PMSは六千ルピー弱）ですが、赴任先が北部のマザリシャリフの為、躊躇（ちゅうちょ）して、PMSがもっと給料を上げれば残ってもいいと言っているようですが、辞めても

らうよう手続き中です。早速ジャララバードの会計が困りますのでペシャワール会計から一人送ろうとしました。が、会計スタッフは全員バキスタン人でクリスチャンである為に彼らの家族全員がアフガン入りに対して反対しましたので不可能になりました。ジャララバードでは新職員募集も始め一時的に目黒さんや他のコンピュータの出来るスタッフに引き継いでいます。

(3) アフガン通貨が変更する前に、ジア副院長とハビープとで診療所の六ヶ月分の薬剤購入をカーブルで終えました。

(4) 今月七日、ジャララバードのスタッフハウスへの二四時間送電を申請して、ハザラット・アリ(司令官)の許可待ちだった件を進めています。

(藤田)

九月二〇日(金)

お疲れさまです。

先週の日曜日に、ブディアライ村の収穫祭に招待されました。プロジェクト関係者と村人数人が参加して、パイロットファームで採れたトウモロコシや大豆を試食したり、現地の唄と音楽を聞かせて頂きました。目黒さんのアレンジもあり、到着初日から歓迎を受け皆さんと良い日を過ごすことができました。

(川口)

一〇月七日(月)

お疲れさまです。

一〇月二日の午後、あるキリスト教系NGOから韓国人ワーカーが私に面会を求めてジャララバード・オフィスに来ました。グラエヌールで何回も私の名前を聞いていたので挨拶に来たとの事でした。話の中でそのNGOは去年、グラエヌールにおいて二〇〇頭の牛を住民に配り、来年は四〇〇頭の牛を配る予定だとありました。今年は来年に向けての準備をしているそうです(家畜用診療所の場所も選定中との事)。彼の話では、今年

は別のNGOがグラエヌールで牛を配ったそうですが、住民にはなくコマンダー（軍閥の司令官）達に渡されたそうです。

PMSの農業計画についても質問されましたが食用作物と飼料用作物の試験栽培段階だと伝えました。ACBARに加入しているかも知れ、
「もし加入しているのなら計画が重ならないように打ち合わせをしたい」との事でした。ACBARとはアフガニスタンで活動しているNGOを統括している団体で、NGO間の計画の調整も行っています。一つの地域に複数のNGOが同じ計画で活動しないように管理をしています。PMSも加入しています。

冒頭のキリスト教系NGOは援助活動と共に布教活動を行う事で特に評判の悪いNGOであり、二〇〇一年八月にはタリバン政権によって閉鎖追放処分を受けています。今年の初めから再び活動を開始したと言っていました。川口君によるとグラエヌールで何回も活動について質問されたそうです。グラエヌールのスタッフにはジャララー

ド・オフィスを通す以外の接触をしないように伝えてあります。

PMSの雌牛の貸付に関してですが、現在の情勢ではコマンダー達に取り上げられたり圧力をかけられたりする可能性が高く、他のNGOが同様の計画を持っている事もありますので、先日目黒と中村医師で話した時の通りに、試験的に二頭だけパイロットファーム周辺で導入し、それ以降は情勢を見てから判断する形が最良かと思われます。

また、現在までの農業計画の活動についてはアフガン政府の関係機関に報告をしておりますので、今月より井戸関係のレポートと共に報告をしようと思います。内容に関しては二ヶ所のパイロットファームで試験栽培を行い適性検査をしているという程度にしようと思います。全てが試験段階であるという形であれば他のNGOが既に計画を出していたとしても重ならない計画として扱われると思われます。ただし、来年以降に関しても他のNGOが計画を出していないかどうかは引き続き調べておきます。

（目黒）

お疲れさまです。

先日、地方開発省（政府の機関）から個別の会議を持ちたいとの連絡があり、九月二八日に目黒とクヤムデインが話し合いに臨みました。

内容はPMSのレイバー（作業員）への給与を支払わないで欲しいとの事でした。他の井戸関係のNGOでは水が出るまで掘るのは住民によるものとしているためPMSが活動している地域周辺では他のNGOの活動に住民が協力しなくなっているというものでした。「PMSの活動によって住民が怠慢で非協力的になっている」と言われて驚いたのですが、他のNGOから地方開発省に対して強烈な抗議があったようです。

以前からPMSと地方開発省は良い関係を築けていたので、今回の通達には驚いたのですが、現在問題になっているのはロダット郡についてだそうです。ロダット郡において、ユニセフの基金で三〇本の井戸のリハビリを計画されているそうで

すが、住民からはPMS以外の作業を認めないとの反発があり他のNGOから地方開発省を通してPMSへ抗議する事になったそうです。

地方開発省からは「とにかくロダット郡で作業をする予定があるのかどうか、はっきりして欲しい。もしPMSが作業をするのであればユニセフの計画は中止する。予定がないのであればその事を公式に表明して欲しい」と言われました。ロダット以外の地域は今回は問題になっておらず、今まで通りの活動でかまわないとの事でした。

地方開発省のダイレクターが非公式にペルシャ語で語った中で「本当は他のNGOがどんな仕事をしているのか良く分かっている。もし自分に権力があれば閉鎖してやりたいぐらいだけど、自分の立場ではそんな事もできない」と言っていたそうです。

現在、我々の能力ではアチン郡閉鎖後にソルフロッド郡へ集中するのが精一杯ですので、ロダット郡では新規の作業を行わないと地方開発省を通して連絡します。現在PMSで管理している二〇

二本の井戸に関しては継続して管理を行います。帰還民の数も増えており井戸の水位も下がっていますので引き続き水位を監視し維持する事が必要と思われます。

(目黒)

一〇月二日(金)

中村先生、お疲れさまです。

グラエピーチ診療所にいたファズレハデイ医師の報告ですが、診療所でヨード不足による患者を六〇人ほど診察したそうです。診療所周辺では岩塩を使用していること、また住民が「ヨード入り食塩はベナジール(・ブットー元首相)が人口を増やさないうよう流産させる為に作った」と思い込んでいて、わざわざこちらでヨード入り食塩を購入しないのだそうです。以前らしい患者さんの家族検査に行ったバジョワールでも「アメリカが作った塩で自分達に良くない事が起きる」と言っていてやはり使用していませんでした。受け入れられるのは難しいかもしれませんが、一家族で使用する

る一ヶ月分の塩は一四から二〇ルピー弱ですので、診療所で少しづつ配ってみてはどうでしょうか。一月に六〇人もの患者数は、少ない方ではないように思われました。

昨日グラエヌールで転落事故が起きました。井戸にレイバーを下ろしている時上でチャルハ(滑車)を操作していた人が、底に到着したと勘違いして、チャルハから手を離れたため、五メートル転落。頭部裂傷で診療所で縫合処置後ジャララバードに送りレントゲンを取った結果、特に骨や意識状態に異常がないのでグラエヌールへ戻したそうです。目黒さんは、気の緩みから起きた事故なのできちんと今回の事故を処理して引き締めて行くと言っています。

昨日、高橋さんが帰国されました。大変お元気でした。数日後には今回の報告書を中村先生へ提出されるそうです。

(藤田)

一〇月一六日（水）

中村先生、藤田さん、イクラムラ事務長、シア副院長、お疲れ様です。遅くなりましたが現状報告です。

グラエヌールの灌漑井戸では五本目も水が出ました。現在、一本目は完成して稼動中ですが季節的な減水期のため水位が四メートルになっており、小麦の種まきの前にもう一度掘り下げる予定です。二本目、三本目ではウォーターポンプが稼動しており、周辺では農業がかなりの規模で始まっています。二本目ではタービンポンプ用の小屋の建築が進められており、一週間後ぐらいにタービンポンプを装着する事が可能です。四本目ではまだ水が出ていませんが、周囲の井戸の水深から見てもうすぐではないかと見られています。五本目は二本目に二台あったポンプのうちの一台を移動する予定です。すぐに農業が始まるでしょう。

アチン・オフィスは来週中にも五人を残してほ

ぼ閉鎖となります。残るのは六本の手掘りの井戸ですが、これらはまだどれくらい時間がかかるのか今の段階では読めない状態です。

エンジニアのディゴール氏からはオフィスを完全閉鎖して一日おきにジャララバードからエンジニアを巡回させることも提案されましたが、事故などが起こった時に対応できなくなる事が予想されましたので、最低限の人間を最後まで残すことにしました。

最近、ソルフロッドとアチンでレイバーの賃上げの要求がありました。以前の報告にあるように他のNGOからは手掘りの井戸に賃金を出さないでほしいとの抗議も受けており、賃上げは行わないつもりです。賃金の額について要求できる余力のある所よりも、本当に水に困っている所を中心に作業を進める姿勢を改めて示そうと思います。

次回の給与支給では目黒自身が現場を回りレイバーに対してこの事を伝えてきます。

アチンでは七〇メートル以上の井戸が一三本ありますが、これらの井戸では従来使用していた

「インダスポンプ」で水を汲み上げることができません。試験的にインダスポンプを装着してあるのですが、インダスポンプの許容水深は三〇メートルであり全く役に立っていません。新興のワークショップが数ヶ月前にジャラバードに代理店を開いており、最近になって一二〇メートルまで汲み上げ可能な「パミールポンプ」が開発されたと発表されました。まだ現物がジャラバードに届いておらず、届き次第エンジニアに確認させて導入しようと思います。

一〇月七日、ドイツのNGOへ武装強盗が入りました。深夜に一〇人ほどのカラシニコフ（自動小銃）を持った集団が押し入り、コンピューター、無線機、現金などを奪ったそうです。ジャラバードの治安状況から見ても、深夜に武装した集団が出歩くことは不可能に近く、強盗団というよりは治安担当の兵士達による行為ではないかと思われます。この事件が武装していない者によるのであればチョキダールの増員なども検討する必要がありますがあるのですが、武装した者には抵抗できるはずも

なく、幸いPMSのオフィスは比較的治安状況の良い所にありますので、しばらく現状維持のまま様子を見ることにしました。
(目黒)

一〇月一八日（金）

高橋さんが帰日されてからの状況について簡単に報告したいと思います。

(1) カライシャヒ村

一〇月九日 お茶畑予定地へ有機肥料の散布。

一〇月一〇日 アルファルフア（マメ科の牧草）発芽、ほぼ全体的に均等に発芽する。

一〇月一二日 イタリアン・ライグラス（ムギ科の牧草）発芽、同上。コーン（ローカル種、boubar種）を普通サイロ二つに詰め込む。

(2) プディアライ村

一〇月一一、一二日 コーン（boubar種）

とソルゴー（イネ科の牧草。ラッキーンルゴーII種）を刈り取り。



飼料作物として期待されるソルゴー

一〇月一三、一五―一七日、以前刈つておいたソルゴー（ハイブリット、ラッキースルゴーⅡ種）と今回刈った作物を混ぜながらサイレージつくり（普通サイロ二つ、トレンチサイロ一つを使用）。

ブディアライでは思った以上に収穫量があり三つの普通サイロでは相当量が余ると思われ、またこの状況をワリー氏、アキルシャー氏と相談したところ、トレンチサイロにも挑戦してみたいという気持ちが強くあつたのでトレンチサイロを使用してみました。

「挑戦する心」を大切に、しかし、過度な期待はしないこと、失敗したときは肥料として使用することを事前に互いによく確認し、取り組みました。ブディアライでは連日、カッターマシンのトラブル（ボルト、刃の破損）が相次ぎ、また、トレンチサイロを作っている最中に雨に見舞われるなど（いつもなら大歓迎の雨もこのときばかりは恨みました）作業が思うように進まず、時にはワリーと私で熱く興奮して語ってしまうことがあります。

ましたが、そんな彼をはじめ、ファーマー、レイバーみんなよくがんばって作業してくれました。

正直、トレンチサイロに関してはかなり不安が残っています。しかし、失敗を覚悟の上、将来のためにどうしてもやってみておきたかったのです。また、ワリー、アキルシャーも私と同じような気持ちを持っていたことを、とてもうれしく思いその思いを大切にしたいと思いました。

来週は、お茶畑予定地にほうれん草、青梗菜ちんげんさいの播種、大豆の収穫、アルファルフア播種を予定しています。（農業計画担当・橋本康範、以下「橋本」）

一〇月二六日（土）

お疲れさまです。

ジャララバードもだいぶ涼しくなってきました。夕方の五時半には暗くなっています。

二四日には水計画、農業計画、ドラエヌールの医療スタッフの一部がジャララバード事務所に集まりカバプパーティーを開きました。農業計画の

スタッフにとっては初めてオフィスに来る機会でしたし、できるだけ医療スタッフと水計画のスタッフと一緒に過ごす機会を作りたいだったので全員が楽しそうにしているのを見るとうれしくなりました。

日本人スタッフに疲れが見え始めたので交代で休暇を取り始めましたが、川口君が肝炎にかかってしまい、馬場君も二五日の夜から高熱が出ています。川口君はすでにペシャワールで入院していますが、馬場君も治療と休暇をかねてペシャワールへ送ることにします。

作業員の賃上げに関しては、藤田さんからも連絡をいただきましたのでアチンと同じ基準で支払うことにします。アチンでは四〇メートルまでが七〇ルピー（レイバー）と一三〇ルピー（ディガー）、五〇メートルまでが八〇ルピーと一五〇ルピー……としていました。ソルフロッドとドラエヌールの賃金は今までは深さに関係なく七〇ルピーと一三〇ルピーでした。住民からは賃上げ要求がきていたのですが、他のNGOからは賃金を

払う事への抗議もありました。この事を次の給与支払いの際に目黒がソルフロッドの現場を回り住民に説明してきます。給与なしでも井戸を手伝ってほしいという地域は多くありますので、この事を明確に伝えてきます。

灌漑井戸の四本目では先日やっと水が出ました。偶然にも目黒が現場を視察している時にどけた石の下から湧いてきました。住民も大喜びをしていました。現在は帰還民の家作りが多くの場所で行われており、ポンプ小屋を作るためのメイソン（石工）の確保が困難です。ジャララバードから二人、グラエヌールから一人を確保するのがやっとでした。時間がかかりますがひとつずつ終わらせていきます。

グラエピーチ、ワマ両診療所の建築も同様の理由で資材や人員の確保が難しく、少し遅れ気味です。ピーチまではPMSの大型トラックではたどり着けません。鉄筋などを運ぶ際には、行ける所までトラックで運び、スタッフが迎えにきて地元ダットサンに積み換えて現場に運んでいます。

ダットサンが確保できない場合は資材のそばに二日ほど留まって番をしていたこともあるそうです。現在、輸送でもかなりの予算を使っています。道程の一部が急勾配でトラックが通れないのですが、来週にでも目黒自身が現場の視察を兼ねて道の状態も見えてきます。まだ思案中ですが、簡単な工事を通して道になるのであれば、エンジニアを送って道を削り通れるようにしてしまおうかと思っています。しかし、住民の状況もわからず、治安状況も安定していないので視察後に改めて連絡します。

グラエヌールのスータン村に道を通す件については、政治的に安定していないので現在も未定です。アヘン刈り取りの補償金を政府によって三〇〇ドルから一二〇ドルへ一方的に減額されました（グラエヌール以外の地域では未確認）。この事にスータン、ウェーグルなどの上流部の村が反発し受け取りを拒否しました。ハザラット・アリ司令官は長老の一部を拘束したそうです。以前、ヘズビイスラム党のメンバーがスータンにかくまわれ



握手と抱擁はアフガンの習慣儀礼（右は目黒）

ていた容疑で数人の村人が拘束されましたが、実際はアヘンを巡る問題のようです。この件が落ち着くまでは様子を見ることにします。
（目黒）

一〇月三〇日（水）

お疲れさまです。

（一）ソルフロッド郡について

現在、ディグー技師によって掘れた井戸と作業中の井戸のレポートが作られています。四〇センチ以下の井戸の一覧が提出されます。三週間ほど前には六〇本ほどありました。私も驚いてディグーと相談したのですが、彼が言うには掘れたといってもすでに水があった井戸であり掘り直しには一週間も掛からないそうです。一人のサイトエンジニア（現場監督）が五本まで管理できますので、一ヶ月以内にはこの六〇本の掘り直しが終わると言っていました。今日上がってきた一覧では一六本でした。

ソルフロッド郡では九人のサイトエンジニアが働いていますので四週間で一八〇本の井戸のリハビリが可能な計算になります。実際は色々な問題があるので半分としても九〇本前後なら問題ないそうです。ただし、新規の井戸には手が回らないのが本音です。

(2) カクラック村について

ご推察の通り、エンジニアの人数の問題と目黒及びディグラーが忙しすぎて、まだ手がつけられていません。エンジニア部門は人数の割に抱えている仕事が多く大変なはずですが、忙しい分だけやり甲斐があるのか活気があります。アチンを終わらせたら人数が増えるのですが、残っている六本は特に難しい井戸です。すのでいつ終わるのかはつきりと言えません。前回も書きましたが事故が起きたときに対応できなくなるので最低人数は残すことに決めました。現在のペースだと再来週以降に始める形になると思います。

(3) 上流部スータン村について

昨日になってヨセフから連絡があり、スータンからの回答があったそうです。スータンの長老のうちの四人が担当になり何か問題が起きたら協力するとの事です。目黒とシヤラフ医師にもう一度あって話したいと言っていましたので、この件もグラエビーチから戻ってからになります。

(4) 前回、中村医師と一緒に視察したグラエヌールのシュキアライ村ではツインハンドポンプの装着が終わりました。大きな村で人口が多いのに一本しか井戸がなく順番待ちで夜遅くまで並んでいるとの報告があった村です。ひとつの井戸に特製のカバー板で二本のハンドポンプをつけました。間に合わせの処置ですが好評と聞いています。

(5) 昨日はアチンの給与支給に行ってきましたが掘っている井戸の横にアヘンの精製工場がありました。機械の音がするので何をしているのかと聞くとエンジニアが教えてくれました。見せてもらえるか聞こうかと思いました。

たが外国人というだけで警戒されるのでやめておきました。公然と操業しているアヘン工場が一〇ヶ所ほどあるそうです。
(目黒)

一二月一日(金)

日本の高橋さん、稲田さんお疲れ様です。

先週はブディアライ村の、アルファルフアが発芽しなかったところへの播種、ハイブリット・ソルゴの刈り取りを中心に活動しました。今週は看板の設置、堆肥(牛糞・藁)のカライシャヒ村の試験農場への施肥、草を刈って肥料作り、などをやってみようと思っています。

ところで、ソルゴの根やソルゴの成長しすぎて餌にならないものや、いたるところに生えている草を一年間寝かせて肥料にしてみようと思うのですが、どのようにすればよい肥料が出来ますか。ただ、畑の隅に重ねて置いておくだけでもある程度の肥料は出来るようですが……。

高橋さん、農業土木学会での発表内容について

は順調に進んでいますか？　ドラエノールは確実に日に日に寒くなってきました。寝るときは部屋の中でも毛布が二枚必要となりました。体には互いに気をつけていきましょう。
(橋本)

一二月四日(月)

中村先生、お元気でしょうか。ペシャワールはいつもより早く冷え込みが始まりました。

ペシャワールのアフガン・コミッショナーから全雇用職員の五割はパキスタン人にするようにという手紙が届きました。宛先のNGO名の所だけが手書きでしたので各NGOに宛てられた書類のようです。現時点でざっと計算をした所パキスタン人四八名、アフガン人六〇名です。このアフガン人職員中二〇名は、一年中診療所勤務しており、又ナースと検査技師は半年はアフガンで勤務していますので、この事をコミッショナーに説明をしてみるとイクラムラ事務長は言っています。

今月六日からペシャワールは断食が始まります。

勤務時間は平日八時～三時、一時から三〇分はイスラム教徒スタッフがお祈り、キリスト教徒又は日本人スタッフは昼食。金曜日は八時～一二時まで。昨年は一二時半まででしたが、お祈りの為モスクへの到着が遅れるとの事で今年から一二時に切り上げて欲しいと希望が出ています。先生の承諾が頂ければ変更致しますが如何でしょうか？

(藤田)

一一月六日(水)

お疲れさまです。

先日、視察してきたダラエビーチ診療所(IIオキナワ・ピース・クリニック)の建築状況です。基礎と壁作りは、ほぼ終了していました。今からは屋根と窓や扉に取り掛かるそうです。

ワマでは今年は壁作りと地ならしまででした。川に面した崖では高さ七メートルの石垣が完成していました。すでに気温が低くなっており、今からの作業ではセメントの乾きが遅く強度のあるも

のは作れないそうです。来年の春からの作業再開と決まり、現在は全ての作業が止まっています。材料の輸送の困難な状況の中でよくがんばっていると思います。

(目黒)

高橋さん、稻田さんお疲れ様です。

肥料の作り方についてメールありがとうございます。家庭園芸の本には施し方については詳しく書いてあるのですが作り方についてはあまり具体的ではなかったのです……。

一月中旬に小麦の播種を行なおうと思っていますが、種子はどのようなものを手に入れたらよいでしょうか。また、畝^{うね}の作り方については以前話し合った方法でよいでしょうか。もし何か変更があれば教えてください。

現在カライシャヒ村では予定地に堆肥を二トンいれ、過磷酸石灰を八キログラムほど混ぜてからまき、灌水を行った状態になっています。来週中



工事中のオキナワ・ピースクリニックを視察に訪れた中村

にトラクターで耕起する予定です。

ブディアライ村では予定地のハイブリット・ソルゴーを先月二八日に刈り、一週間ほど乾かした後、一月三日にサイロ（普通サイロ三基目）へつめました。その後ソルゴーの根、草を取り除き、来週中に肥料をまき牛を使って耕起する予定です。本日からアフガニスタンではラマザン（断食月）に入りました。ファーマーのアシルシャーにラマザン中の仕事は大丈夫かと聞いたところ、あの笑顔で「ムシケル ネシタ！（問題ない！）」を連発していました。しかし、彼らの体力・精神状態も充分考慮しながら仕事を進めて行きたいと思います。

（橋本）

橋本様。

お元気で活躍いただいている模様で安心しました。

小麦の品種については、私のチョンボで橋本さんと相談するのを忘れていました。品種の比較検

討ができていませんで、今年の場合は次の方法でお願いします。

グラエヌールで作られている品種は在来種ですが、その中にも少し収穫量が多い品種とそうでない品種があると思います。またAさんが栽培している品種は収穫量が多いが、Bさんの家の小麦は収量が少ないといったことがあると思います。その辺をワリーさんとか担当農家とよく話し合って、今年の場合は、グラエヌールの在来種の中から選んでください。播種の方法は、前に相談していた方法でお願いします。

お茶苗、ブドウの穂木の件お世話様でした。

ところで、橋本さんの帰国は一二月とお聞きしていました、ブドウの穂木の受取・保存の手配をよろしく願います。また帰国される前に、硫黄華を撒いた畑のphを是非測ってみてください。

(高橋)

一一月七日(木)

今年八月に受賞いたしました第一回沖縄平和賞で贈られた浄財は、アフガニスタン・東部・山岳地帯の村、グラエピーチに建築中の診療所に使わせていただき、これを「オキナワ・ピース・クリニック」と名づけました。

戦乱の地にあえて平和の礎を築くのです。現在同診療所は屋根を載せる用意をしています。

ヌーリスタン・ワマ診療所では、急流の崖つぶちの工事が終わりました。まるで蜂の巣城です。

福岡市にある大濠公園のお堀ばたかとも思われます。現地から工事進捗状況の写真が送られてきました。(ペシャワール会事務局)

一一月二日(火)

ジャララバードのバザールでは一〇日から政府と米軍により全ての両替商が閉鎖されました。新



「OKINAWA」の文字が刻まれたピースクリニックの看板

アフガニー紙幣の下落が原因だそうです。閉鎖がいつまで続くのかわかりませんので現在は情報収集中です。送金もできませんので代替手段を検討する必要があります。

先日より、ジャララバードでは二日続けて雨が降りました。気温も急に下がり体調を崩している者が多いです。私自身が風邪引きの筆頭ですが、何とか仕事はこなせそうですので頑張ります。

ラマザン（断食月）が始まり勤務時間が七時から二時までと変更されました。毎年の事ですが、明らかに能率が落ちているのを感じます。お腹を空かせてイライラしてる者や、タバコやナスワール（含み苺）を我慢して苦しんでいる者など理由は様々ですが、気の緩みは事故につながるのので気を付けるようにします。バザールでもタクシードライバー達の運転が乱暴になっています。今日だけでも軽い接触事故を二件も見ました。

灌漑用井戸では一応全ての井戸で水が出ており、ポンプでの供給も可能なので勤務時間を他の井戸と同じにしました。日本人も長嶋さんと黒沢君が

朝三時に起きて朝食をとりきちんと断食を守っています。目黒と馬場君は朝食だけは以前の時間できり、昼食は抜いています。しかしタバコだけは隠れて吸っています。タバコも我慢している長嶋さんを尊敬してしまいます。

(目黒)

一月一九日(火)

中村先生、お疲れさまです。

ジア副院長とシャラフ先生が今回やつと九台の車輛の変更ナンバー登録をすべて終えカーブルから帰って来ました。

断食中にも関わらず外来、入院数は変化なし。

数ヶ月前からドラエビーチ診療所でリーシュマニアの治療を開始した後、最近ではリーシュマニアの患者が増加して注射剤が不足。以前はPMSの診療所では治療していなかったので患者は他の施設に行ったりバザールから薬を購入、又は放置していた。リーシュマニアについてはドクターがどの位まで(患者数)治療出来るのだろうか、と尋

ねています。

(藤田)

一月二九日(金)

ドラエヌールは最も早魃^{かんぱつ}被害のひどかった地域のひとつである。同地は一九九二年にPMS診療所が開かれてから、いかなる状況でも活動が止んだことはなかった。

現在、中下流域の村落が水源事業の中心だが、清潔な飲料水欠乏は、上流でも多くの犠牲者を生み出した。ドラエヌール五万人の人口のうち、半分以上が上流域に住むパシャイ部族である。患者たちは最奥の村々から、五時間、六時間かけて、徒歩で診療所にやってくる。

二〇〇一年夏から、PMSは徐々に上流へ活動を拡大している。その最前線がバンバコート村(人口約二千人)で、住民は有史以来、井戸を掘った経験がなく、流れてくる小川だけを全ての生活用水にしてきた。バンバコート村の井戸は、^{さんたん}苦心惨憺して一年がかりで完成(深さ二六メートル)

ル)、これによって小児の腸管感染症の犠牲を激減せしめた。

この成功はさらに上流の住民に伝わり、嘆願書が続々と届けられた。しかし、同村が自動車の入れる最終地点。これより上流は機材搬送が困難で、井戸掘り経験のある村人がいない。そこで、バンバコートからスータン村(人口約二五〇〇人以上)まで、ジープが通れるくらいの道を作って、あわせて患者たちが診療所に来やすいようにするという計画であった。

しかし、カーブル陥落後の軍閥割拠の影響で、話し合いが難航していた。今秋、住民の方から長老会の受入れを申し出てきて、工事が始められようとしている。

現在、グラエヌールでは、GAA(ドイツ救援会)が一部で道路事業に着手。だが、実態はPMSが陰で技術協力、道具を貸し出し、ドイツ側が地元民に労賃だけ払うという形になっている。PMSとしては、「為になることなら誰がやっても構わない」という方針で、ドイツ側の事業を背後

から支えている。

(目黒)

十一月三〇日(土)

ペシャワール会への暖かいご支援、ご寄付ありがとうございました。

現地は、平年より早く冬が到来し、アフガニスタンでは一月六日から、パキスタンでは一月七日からラマダン(断食月)が始まりました。現地では現地職員と日本人ワーカーと一緒に寒さの中、業務に励んでいます。

最近の現地での活動を報告します。

(1) 医療活動……二〇〇二年一月六日現在
●パキスタン

1. ペシャワールにあるPMS基地病院での
外来総数は四一八三人、入院患者数一四一人、外傷治療数四二八例、検査数二二七二件、リハビリ一〇八五件、サンダル支給二二足でした。

2. コーヒスタンのドベイル・バラ診療所で

の活動は治安上の理由により一時的に停止しています。

3. ラシユト診療所は、冬期のために閉鎖しました。

4. 仲地医師と現地医師がタイのバンコクでの学会に十一月二二日出席し、PMSの医療活動について発表しました。

5. 現在、日本人ワーカーは医師二名、看護師一名、検査技師一名が活動しています。

一月末に新たに看護師一名が加わります。ペシャワールにはこの他、会計など三人の日本人ワーカーがいます。山崎悦子さんのおいしい料理に現地食に飽きた他のワーカーは生き返っています。

●アフガニスタン

1. アフガニスタン三診療所の外来総数は六五四人、外傷治療は二九一例、検査数二一四三件でした。

2. ダラエビーチの新診療所の建築は進行中です。沖縄平和賞受賞を記念して、名称を

「ダラエビーチ・クリニック」から「オキナワ・ピース・クリニック」と変えました。

3. また、ワマの診療所の新築工事も進んでおります。

(2) 水源確保計画……二〇〇二年一月一日現在

1. アチン郡はほぼ見通しがつき、殆どの井戸を住民に手渡しました。

2. 全体の作業地総数は余り増えていませんが、その分だけ涸れ井戸が続出しているという事です。水位の下降が著しく、再掘削で維持するのに苦戦しています。

3. ソルフロッド郡、ダラエヌールの急激な人口増加（難民帰還）で、水源が足りなくなり、作業地は今後さらに増えます。ソルフロッド郡ではカクラック村の三〇カ所で調査を完了し、年内完成を目指して、ダラエヌール中、下流域でも徐々に増加させています。

4. 手掘り井戸の最深記録、八九メートルが



スータン村への悪路を往く PMS スタッフたち

出現しました。それでも村人たちは掘り続けています。既に、手押しポンプが使えない深さのものが現れ始めました。PMS ジャララバード事務所は「深井戸用ポンプ」を工夫中です。

5. グラエヌール下流の灌漑用の大口径井戸は、全五ヶ所で水を得ました。完全に完成したのは第一号のみですが、掘削中の排水が同時に給水となります。現地は小麦の種を播く季節に入ります。滑り込みで間に合い二ヶ村（ソレジ村、ブディアライ村）で推定八千名以上の人々が自給自足可能となりました。

6. 現在、日本人ワーカーはジャララバードに四人います。

(3) 農業計画……二〇〇二年一月二四日現在

1. アルファルファ、イタリアン・ライグラス（いずれも飼料作物）の生育状況。

①ブディアライ村

アルファルファ…二五cm～三〇cm

② カライシャヒ村

アルファルフア…二〇～二五 cm

イタリアン・ライグラス…二五～三〇 cm

どちらも播種してから一ヶ月半が過ぎそろそろ収穫の時期です。刈り取っても短期間には給与できないと思いますので、残ったアルファルフアは乾草にして冬の間に給与していく予定です。アルファルフアは乾草に適した作物で、冬季の良い栄養源になります。

2. 小麦の播種

先日グラエヌールで雨が続いたということと予定より若干遅くなっています。周りの農家もこれから播種するようです。ブディアライのほうでは十一月一九、二〇日に播種完了しました。

カライシャヒ村のほうでは先週トラクターでの耕起が終了し十一月二三、二四日に播種の予定をしています。

3. サイレージ

両サイトのサイレージ共に甘酸っぱいにお

いがし、明るい色く黄褐色で上々の品質の様です。

4. お茶

お茶の苗がこの頃急に元気がなくなってきました。一二cmほど伸びたところでほとんどの苗の葉が茶色くなってきました。カライシャヒから次回茶園予定地 No.6 の土をもってきて二つの比較的元気な苗を移植させました。ph 障害、もしくは過湿か土の固まりすぎではないかと考えています。

5. 日本人ワーカー

現在、日本人ワーカー三人がグラエヌールにいます。
(ベシャワール会事務局)

*サイレージ……水分含量の多い飼料作物をサイロに詰め、発酵させて貯蔵した家畜の飼料。



サイレージの管理を担う地元ファーマー

一二月二日（月）

高橋さん、稲田さんお疲れ様です。

（1）アルファルファ、イタリアン・ライグラスの収穫、その後の留意点について了解いたしました。

ブディアライ村のアルファルファの収穫は一二月一、二日に行ないました。まだ幾分生育が遅いところはもう少し待ってから収穫しようと思います。現地の方は日中はまだ二〇度を越しています。まだ充分暖かいと思いますので収穫後UREA（尿素肥料）を一〇アールあたり五キログラム播こうと思っています。

私も気になっていたカライシャヒ村のイタリアン・ライグラスの成育のばらつきですが、今のところはつきりとした原因は分かりません。水による影響（水が少ないための生育不良、もしくは多すぎたための湿害）を真っ先

に考えたのですが、どうも一定していません
施肥にばらつきがあったのではないかと考えて
います 施肥時風が吹いていたので……。
こちらの収穫は三日、四日に行ないます。

(2) お茶園のphについて

No. 5 圃^ほ (八月下旬に硫黄華投入)

……5・7 ph

No. 6 圃 (八月下旬に硫黄華投入)

……5・6 ph

思っていた以上に下がっていたのでびっくり
してしまいました。土は各畑二ヶ所ずつ三
一〇センチの深さから採りました。ただ、
サイレージの余りの物が発酵しての一時的な
ものかもしれないので、今後も注意してみ
たいと思います。

(3) 肥料について

先週ブディアライ村のトレンチサイロの隅
を使用して肥料を作りました。材料は刈り
取ったばかりの葦と乾いた葦を3対7、乾い
たとうもろこし&ソルゴーの根をカッターマ

シンでカットした後牛の糞を五〇分の一より
少し少なめ、それにUREA五キログラムを
混ぜて作りました。水はサイレージより多め
に湿気が感じられるよう入れました。その後
ビニールをかぶせました。

いよいよ四日にカライシャヒ村のサイレー
ジ一号基をオープンしようと思います。次回
その報告を中心にメールしたいと思います。
こちらは一時期の冷え込みが和らぎ日中は少
し動くはまだ汗が出ます。Tシャツとカミ
ス(ズボン)で充分です。さすがに朝晩はだ
いぶ冷え込むのでバトウー(体を覆う薄地の
毛布)は手放せなくなりました。(橋本)

一二月四日(水)

橋本様

茶子定地のph、私もびっくりしました。同時に
ホツとし元気が出てきました。心配してくれてい
る後輩にも早速連絡しておきます。私の想像です

が、灌水によって硫黄華の分解が促進されたのと、有機物の施用によって有機酸が発生したのとの相乗効果ではないでしょうか。もしそうならphの低い灌水用の水と有機物の確保が絶対条件になりますね。これで土壌条件を整えることについては目途ができましたので、後はスムーズに苗木・種子を入手することが課題になります。パキスタンの方の手配よろしく願います。

(高橋)

一二月六日(金)

高橋さん、稲田さんお疲れ様です。

サイレージの結果について報告いたします。残念ながら一号基(カライシャヒ村)は失敗いたしました。ラティーフの家の牛に与えたのですが食べようとしませんでした。

状況を説明いたします。

- ・匂い……森の中の腐葉土のにおい。
- ・色……暗褐色ところにより黄褐色。
- ・触感……ところどころにカビがあり固まって

いる。その他は適度の湿り気がありさらさらしている。

原因としてはとにかく水分が少なかったのではないかと思われます。しかし、一部黄褐色のところや距離を置いての臭いがどこことなく甘酸っぱいにおいがしたり触感にいたってはさらさらしていて適当な湿り気があったのであと一歩という感じがして仕方ありません。とにかくこの失敗を無駄にせず次回に生かしていきます。残りの六基も来週、再来週中にオープンする予定です。この一号基を基本にその他も作っていったので不安がありますが、とにかく今は一つでも成功していることを祈るばかりです。この失敗のサイレージについては今後肥料としてリメイクしていく予定です。とにかくサイレージ悔しいです。(橋本)

一二月七日(土)

橋本様、サイロを開封し品質をみられたところと、落胆されているようですが次のように考えま



飼料加工用のカッターマシン

す。また、高橋さんが責任を述べておられますが、これは私の責任であると感じております。とにかく、試行錯誤が農業です。我が家の米づくりも三〇余年になりますが、毎年試行錯誤と疑問と失敗と驚きの連続です。少しも落胆する必要はありません。懸命にやっていたればそれでいいのです。結果は努力に必ずついてきます。

考察

(1) 写真をみますと黄褐色とカビ、それと堆肥的な発酵が入り混じっており、品質のバラツキがあります。

(2) ただし、水分過多や極端な水分不足ということではないと思われます。

(3) 良質にならなかった原因として大きく考えられるのは以下かと思いました。

① 水分は決定的な要因にはなっていないような気がする。

② 詰めこみ時の時間が長く、密封までに時間が掛かり過ぎたのではないか。夏場（高温時）は素早く詰めこみ作業をすすめ、短時

間に密封しないと腐敗を促す酪酸発酵が強くなる傾向があります。

③また、春・秋より夏のサイレージは作りにくいです。それは、発酵が高い気温の中で進み、酪酸発酵が長引き、良いサイレージのもとになる乳酸発酵に移行するのが遅く、したがって十分な乳酸発酵を得られないからです。これは、夏場の草が炭水化物（糖分）が少なく、乳酸発酵を盛んにしにくいということも加わるからです。

④糖分は夏場ということだけでなく、土壌や肥料にも影響されます。収量が少なかったということを見ると炭水化物含量が少なかったとも推定されます。それで、願っていたのはサイレージ本体、詰め込んだ材料で現地で乾いた状況で保管されているもの、生育中の材料など乾物重で各一〇〇グラム程度を今度帰国される際に持ち帰ってもらえないでしょうか。成分分析を試験研究機関に依頼してみたいとおもいます。も

し、成分で著しい値が出るとすればサイレージの調整方法を基本的に変えねばなりません。後続のサイロの結果を見なければわかりませんが、こんなことを念頭に置きながら状況をお知らせください。

また、現地で「糠」は入手できるでしょうか。なお、牛の嗜好については高橋さんも指摘していますが試してください。ただし、サイレージを握った手の臭みが石鹼で洗っても一度では落ちないようなサイレージやベトついたものは消化器障害を起しますから論外です。

よろしくお願いいたします。

（農業指導員・稲田和重。以下「稲田」）
*稲田氏は高橋氏と同様、農業計画の技術面での指導にあたり、現地にも赴いている。

一二月八日（日）

国境トルハムは、ペシワールとジャラバードをつなぐ重要な貿易地点です。

数百軒のバザール・食堂もありましたが、湯水でアフガン側はまともな運営ができない状態でした。一年半前（二〇〇〇年六月）に二ヶ所でボーリングが始められ、今春から給水していますが、空爆の影響で工事が遅れていました。

現在給水塔を建設、組織的な給水設備を整えつつあります。住民自治会とは話がつけられています。建設後は正式にアフガン政府に引き渡されます。

一応二基で様子を見て、足りなければ増設予定です。
(水源確保事業担当・長鳴透)

現地ではソルフロッド郡を中心に常に四〇本ほどの井戸が涸れています。涸れたまま放置しているのではなく、四〇本掘りなおしても水位が下がり、次の四〇本が涸れるという状況です。しかし数日前までは使用されていた井戸ですから、一週間で掘りなおしも終わります。

エンジニア一人で五本の井戸を管理できます。

現在のソルフロッド郡では十数名のエンジニアが派遣されていますので充分掘り直しが可能な状況です。

新規の井戸はソルフロッド郡のカクラック村を中心に始められました。ソルフロッドの中でもジャララバードから一番離れた村でもあり、去年の状態では人口も少なく数本の井戸で足りていた村でした。帰還難民によって人口が急増しましたので一年前には充分だった井戸の数が現在では全く足りなくなっています。

他の地域でも人口が急増しており、新規掘削に向けた調査を行う必要を感じています。去年に比べて我々のスタッフの人数も減っていますが、その分、士気の高いスタッフが多く、経験も積んでいますので難しく危険な作業も安全で確実にこなせるようになりました。
(目黒)

二月九日(月)

中村先生、診療所勤務の医師より報告です。

——ドラエヌール、ワマ診療所の住民の状態が変化して来ている。ワマでは何処かの援助で道路工事が進められレイバー（作業員）達が毎日交代で腰痛のため受診している。ワマ診療所からの帰りに路上にある石をのけてくれるように依頼しても自分でやれと言って取り合わない。以前はこうではなかった。村の殆どの人の所に現金が入り以前のように診療所のスタッフ（医師に対してさえ）への尊敬の念が見られなくなった。以前PMSが作った水力発電は村人に譲り渡して以後故障しており、他の場所に村人達が発電所を作ったが、診療所への電線は切られており今は診療所のみが電気がない状態。長老に話したが道路工事のため診療所への電線は障害になると言われ断られた。

ドラエヌールでは、時間外に急患ではない村人が「給料を貰ってここで働いているのだからいつでも診療をしなければならない」と時間外に横柄な態度で受診して来て、時間内に来るように話すと暴力を振るいそうになり、医者、検査技師は避難したので助かった。——

ドラエヌールで働いたドクターは「問題なのは前回の暴力事件も今回もPMSのスタッフが絡んでいる事だ、何とか病院から長老かコマンダー（民兵の指揮官）に話して安全を確保してもらわなければ、そのうち村人の暴力でPMSはスタッフを失ってしまふ、次回自分がこの診療所に派遣されるなら退職する」と報告しました。

確かに二、三ヶ月前に派遣医師が住民に殴られた事件がありました。その時の問題は男性診察日で外来診察患者が大勢待つている中ゲートから真っ直ぐ医師の所へ急患ではない女性患者を連れてきて彼女の腕をまくり「血圧を測れ」と命令したので、医師が「受付をしてから来るように、又今日は男性受診日である」と話した所、一度引き返し仲間を連れてきて医師を殴りました。検査技師と看護師達は恐ろしくて台所にこもっていたそうです。その後、村のコマンダーが来て「若い者の過ちでやった事なので許して欲しい」と詫びたので診療は続行になりました。

PMS本院は、らしい患者さんのみ七名残って

います。イード用に患者さんと勤務スタッフにご馳走を準備しました（と言っても皆の大好きな鶏肉料理、果物をりんごとバナナ、甘いお菓子くらいです）。今年は病棟に残った患者さんにセーターとパトウー（体を覆う薄地の毛布）をプレゼントしたので、皆大喜びです。

昨日ジャララバードに戻っている橋本君に降雪の事を聞いてみました。一ヶ月前に積雪が見られ少しずつ溶け山肌が見えて来ていたが、三日ほど前に又積雪があり、今ジャララバードからもガラエヌール方向の山が白く見えているそうです。

（藤田）

一二月一八日（水）

サイレージ成功しました！ メールを書いている今でも興奮しています。高橋さん、稲田さん、川口君やりましたね。

一二月一五日カライシヤヒ村のサイレージ残り二基を同時にオープンしました。

・シートをはずして表面部はこげ茶色でかなり水分を含んでいた。

・表面部から深さ約五〇センチのところまでは赤、黒、青のカビが見られた。白くべつついたカビも見られた。また、きのこの臭い、腐葉土のにおいがし、小さな虫もたくさん見られた。

牛が食べたのはこの下の部分（五〇センチ以上の深さのところ）です。この部分は酸っぱい臭い（梅干のにおいの弱い感じ）です。

・全体としては明るい色。

・適當の湿り気があつてさらさらしていた。

・体温より少し高めのアタタカさがあつた。

開けたときは臭いと色が以前と同じだったのでまだめかと半分あきらめかけたのですが、

いくらか掘り出して行くときれいな明るい色、そして適当な湿り気があるものが見えてきたのでそれを取り出して牛に与えてみました。すると、今回は躊躇（ちゅうちよ）することなく食べ始めました。

ファーマーのラティーフ氏が言うにはそのとき



試験農場のファーマーと（左が橋本）

牛はお腹が空いていなかったそうです。

実は前回オープンしたサイレージも食べ始めたということでした。前回私たちが確かめたところよりもさらに深いところを取り出し、乾かした後食べ始めたそうです。実際牛が食べているそのサイレージを見てみたのですが、臭いは成功したサイレージと全く同じ臭いがし、完全に乾いた状態のものでした。カビやベトついたものは食べていないようです。ただし、このサイレージについては大丈夫かどうかはつきり分かりかねたので今後とも注意深く牛を観察するようにラティーフ氏に伝えました。しかし、五日間与え続けて〇・五リットル、ミルクが多く出るようになったそうです。今回のサイレージは確かに高品質というには少し開きがあるかもしれませんが、また、上層部の失敗部分もありました。しかし、確かに牛は食べました。とにかく本当にうれしいです。ほっとしています。

これでやっとスタートラインに立てたような感じがしています。今週末はブディアライ村の方を

オーブンする予定です。

こちらはようやく桑の葉の色も黄色さを増し、落葉し始めたものもあります。カライシャヒ村のパイロットファームの周りの景色は日本の田舎の晩秋といった感じです。しかし日中はまだTシャツと現地服の二枚で十分な暖かさです。日本の冬も厳しさを増してきたことと思います。

お体にはくれぐれもお気をつけください。

(橋本)

(1) カライシャヒ村

一二月八日に小麦の発芽が見られました。しかし未だ全体の一〇パーセントにも満たず、今後注意して見ていく必要があります。表面の土がかなり固まってしまっているのも、もう一度灌水して芽を出やすくする必要があります。土壌中に有機物が充分あれば、土が膨軟になって問題は起こりません。少し長い目で見て有機物を多用しながら改善していく必要があると思います。

一二月九日、一〇日アルファルファ、イタリアン・ライグラスの収穫をしました。先週の三、四日に刈ったNo.3圃^はのアルファルファは四センチほど伸び、イタリアン・ライグラスは七センチほど伸びています。アルファルファとイタリアン・ライグラスの混播が順調に生育しています。やはり日本より暖かいように思います。一方順調な生育は、地力の消耗と連動しますので対策が必要になります。春の施肥に何をどのくらいやるか、現在検討中です。

(2) アディアライ村

一二月九日、三回目のラッキースルゴーIIの収穫をしました。来年は四月、条件が許せば三月に播種して五回刈りを狙いたいと思います。刈り取り後、直接家畜に与えていく予定です。

飼料作物と有機物が不足していますので、イモ予定地へのソルゴーの鋤込み、菜の花の栽培等いろいろ工夫しています。

(高橋、稲田)

一二月三一日（火）

ドラエヌールの灌漑用井戸では一号基から三号基の井戸までがタービンポンプで順調に水を供給しています。三号基の供給開始は一二月二日でした。四号基と五号基にもエンジンに先に搬入しており、水位が確保でき次第ポンプの取り付けが可能で状況です。

ヨセフ（水源確保事業ドラエヌール責任者）からの報告で現在の各灌漑用井戸からの供給による耕作面積は以下になっています（一ジェリブル二千平方メートル）。ヨセフの目測によるものなので厳密ではありませんが、ほぼ正しい数字とのことです。

- 一号基 三〇〇四〇ジェリブ
- 二号基 三〇〇三五ジェリブ
- 三号基 二〇〇二五ジェリブ
- 四号基 五〇八ジェリブ
- 五号基 五〇八ジェリブ

スータン村（ドラエヌール渓谷東側上流部）については村人同士の合意ができていないので、現在は静観を続けています。先にウェーガル村（ドラエヌール渓谷西側上流部）方面に手をつけてもよいと思いますので、次回ドラエヌールへ行くときに視察してこようと思います。

貯水池についてはシュキアライ村（ドラエヌール渓谷中流部）で調査を行っており、もうすぐ計画地図ができ上がるそうです。かなり大きなものになりそうですが、ディグー技師（水源確保事業チーフエンジニア）の話ではほとんどの材料がドラエヌールで手に入るため安価に仕上がるそうです。先に大掛かりなものから手をつけて、その後に小規模な貯水池を数多く作る方針で進めようと思います。

以前、ヨセフに対してコマンダー（民兵の指揮官）が灌漑用井戸を要求したことがあったそうですがメンテナンスが不要な貯水池を考えていると説明したところ、現在、灌漑用井戸の要求はありません。注目と期待を集めていると思われます。



中村が灌漑用井戸を視察する中

ただし、ブディアライ地域（グラエヌール渓谷下流地域）は灌漑用井戸が必要と思われますので再度調査を行って新規の井戸を掘りたいと思います。

トルハムの井戸については、一号基はもうすぐタンクが完成します。二号基は電気式のポンプによるシステムでしたが、現在、最深部のポンプが故障しており、二九日にハビブラフマン達医療メンバーがペシャワールに運びました。

カクラック村（ソルフロッド郡西部）ではアレシジ済みも含めて一三本ですが、その中で暫定的に完成した井戸が三本、水が出て作業中の井戸が二本となっています。

治安は今までどおり悪いですが、クナール州（ジャラバードのあるニングラハル州の隣の州、グラエピーチ・クリニックがある）で米軍が医療調査を装ってコマングラーの家を訪れ銃撃戦になったことが話題になっており、反米感情が反NGO感情につながるといふ懸念があります。

私の留守中も大きな事故はなく、細かい問題が

続くことや治安が悪化することもありましたが、
総じて作業は順調に進んでいました。明日から現
場を回って来ようと思います。
(目黒)